



公立大学法人

福島県立医科大学

# 医療人育成・支援センター年報

## 2023年度

## 目 次

1. 挨拶	医療人育成・支援センター長 大谷 晃司	1
2. スタッフ紹介		3
3. 各部門の取組		
1) 医学教育部門	部門長 亀岡（色摩）弥生	7
・活動カレンダー		
・福島医大模擬患者（SP）の会／スキルラボ／OSCE／		
BSLプライマリーコースの医療面接実習／コミュニケーション論／		
地域実習1／早期ポリクリニク／TBL（臨床実習入門）／		
英語による医療面接／多職種連携授業／医療入門1（臨床実習入門）／		
オンライン臨床実習／Moodleを用いた臨床実習評価／		
オーディエンス・レスポンス・システム～ターニングポイントの活用／		
出前講座／学校見学／		
2) 臨床医学教育研修部門	部門長 大谷 晃司	44
・活動カレンダー		
・4年生との未来を語る会／研修医説明会／		
福島県臨床研修病院ネットワークの活動／		
福島・良き医師を育むプロジェクト／指導医講習会／		
臨床研修医に対する支援：教育（メンター制度を除く）／		
臨床研修医に対する支援：メンター制度／		
福島県地域医療を考える懇談会／		
3) 看護学教育研修部門	部門長 高瀬 佳苗	66
・活動カレンダー		
・看護学部生を対象とした就職ガイダンス／出前講座／学校見学／		
看護職を対象とした教育研修		
4) 災害医療総合学習センター	センター長 長谷川 有史	73
・活動カレンダー		
・災害医療総合学習センター事業概要		
5) 保健科学教育研修部門	部門長 久保 均	82
・活動カレンダー		
・出前講座／学校見学／県立高等学校普通科における特色あるコース制導入校（医学コース、保健・医療コース）情報交換会の開催／		
2023年度医療施設等を対象とした教育研修／		
4. 研究業績		90

## 1. 挨 拶

---



## 医療人育成・支援センター長あいさつ

公立大学法人 福島県立医科大学  
医療人育成・支援センター センター長  
大 谷 晃 司



### 2023年度の医療人育成・支援センターの年報発刊にあたって

医療人育成・支援センターは、2008年4月、卒前医学教育と卒後臨床研修を一貫して支援する組織として本学内に設立されました。

2014年4月1日から本学の組織改正に伴い、当センターは、医学教育部門、臨床医学教育研修部門、看護学教育研修部門、災害医療総合学習センターの4部門が置かれ、それぞれ各部門が担う役割を果たし、学部教育・卒後教育の充実をはかり、よき医療人の育成を目指して取り組んでいます。そして、2021年4月からは、新たに診療放射線学科、理学療法学科、作業療法学科、および臨床検査学科からなる保健科学部が設立され、福島医大は医療系の総合大学に生まれ変わりました。

災害医療総合学習センターは、災害医療・放射線医療に係る教育・研修体制の充実、人材育成に取り組んでおり、福島医大生に対する教育だけでなく、県内はもとより、県外からも多くの人を受け入れています。その活動は、国内外から高く評価されています。

当センターは、本学の横断的組織として、総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学、また、医学部、看護学部、保健科学部の学部を越えて、学生から医師、看護師、その他の医療人を育成し、その成長をシームレスに支援しています。

今後も当センターにご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2024年12月吉日

## 2. スタッフ紹介

---



# スタッフ紹介

2023 年度

センター長

教授 大谷 晃司

○医学教育部門

部門長	教授	亀岡 弥生
教員	助教	青木 俊太郎
	(兼)助教	日高 亜紀子
	(兼)助教	中村 光輝
	助手	赤間 孝洋
	助手	諸井 陽子

○臨床医学教育研修部門

(兼)部門長	(兼)教授	大谷 晃司
(兼)副部門長	(兼)教授	濱口 杉大
(兼)副部門長	(兼)教授	木村 隆
教員	助教	唐 尊一
	助教	安井 清孝
	助手	安田 恵
	助手	マハム・スタンヨン

○看護学教育研修部門

(兼)部門長	(兼)教授	高瀬 佳苗
教員	(兼)准教授	丸山 育子

○災害医療総合学習センター

(兼)センター長	(兼)教授	長谷川 有史
	(兼)教授	坪倉 正治

○保健科学教育研修部門

(兼)部門長	(兼)教授	久保 均
--------	-------	------

○事務局

(兼) 教育研修支援課長	後藤 雅樹
(兼) 主幹兼副課長 (総務)	佐々木 利宏
(兼) 副課長兼主任主査兼係長 (業務)	酒井 美登里
(兼) 係長	横山 太郎
(兼) 係長	穴戸 一雅
(兼) 主任主査兼係長	中村 大
(兼) 主査	高倉 好和
(兼) 主査	石田 英祐
(兼) 主査	齋藤 雅之
(兼) 副主査	橋本 光
(兼) 副主査	小野 睦美
(兼) 主事	渡邊 紗英
(兼) 主事	小林 千春
(兼) 主事	佐久間 博之
(兼) 主事 (短)	中村 玲菜
(兼) 主事 (短)	穴戸 久美子
(兼) 主事 (短)	齋藤 亜紀
(兼) 主事 (短)	齋藤 ゆりえ
(兼) 主事 (短)	石原 優子
(兼) 主事 (短)	二葉 美智子
(兼) 主事 (短)	佐藤 千裕

※2023年6月1日現在

### 3. 各部門の取組

---



## 1) 医学教育部門

---



## ご挨拶

医学教育部門長 亀岡（色摩）弥生

新型コロナウイルス感染症が2類から5類になって迎えた2023年度は、生活が徐々に“コロナ禍前“に戻った一年でした。大学病院に立ち入る際の白マスク着用と各自の健康チェックは継続されているものの、大学の構内でのマスクの着用の判断は個人に任せられ、部活動や会食の制限などもすっかり解除されました。1年生が特別養護老人ホームや介護老人福祉施設、重症心身障害者施設に赴く「地域実習1」も3年ぶりに再開されました。一方、敢えてコロナ禍前に戻さず、コロナ禍で培ったノウハウを残しているものもあります。例えば、OSCEに向けた診察手技実習「臨床実習入門」では、一度に4年生全員の130名を対象に行っていたものを、30～40名のグループに分けて行う型が定着しました。密になるのを防ぐためのグループ分けだったものが、指導者の目が行き届き短時間に集中できる少人数制が、教員にも受け入れられました。また、様々な会議が対面と遠隔システムの併用で行われているため、対面での活動を重視しつつも、会津医療センターなど遠方の方々や出張中の方々の会議が容易となりました。

さて、医学教育部門では、今年も様々な出会いと別れがありました。まず、5月にマハム・スタンヨン先生が出産されました。及川沙耶佳先生は、6月から秋田大学大学院医学系研究科 先進デジタル医学・医療教育学講座の特任教授に就任されました。医療人育成・支援センター教員として活躍されていた赤間孝洋先生は10月31日をもって神経精神医学講座に戻られ、同じ神経精神医学講座の宍戸理紗先生が11月から年度いっぱいの任期で医学教育部門にいらっしゃいました。また、医療人育成・支援センターを兼務とされていた地域・家庭医療学講座の中村光輝先生が、自ら志願し11月から医療人育成・支援センターが本務となり、他講座のBSLの支援などを行っていらっしゃいます。

医療人育成・支援センターで共に過ごした先生方も我々も、教育という形で未来の医療を形作っているという誇りを持ち、新たな教育実践や研究に挑戦しながら、それぞれの人生を充実させていければと願っております。

## 2023 年度

### 2023 年

- 4 月 27 日 医学教育ワークショップ (2 回開催)
- 5 月 12 日 『新任・昇任教員研修』
- 5 月 23 日 第 2 回模擬患者 (simulated patient; SP) 会
- 6 月 20 日 医療面接実習 (医学部 4 年生)
- 6 月 30 日 医学教育ワークショップ  
『パフォーマンス・マネジメント』
- 7 月 3 日 医療面接実習・SP 演習シナリオ練習会①
- 4 日 医療面接実習・SP 演習シナリオ練習会②
- 8 月 Pre-CC OSCE 課題評価すり合わせ (複数回実施)
- 8 月 29 日 Pre-CC OSCE シナリオ練習会①
- 8 月 30 日 SP 実習 (医学部 4 年生)
- 9 月 4 日
- 9 月 5 日 Pre-CC OSCE シナリオ練習会②
- 9 月 14 日 Pre-CC OSCE (医学部 4 年生)
- 16 日
- 9 月 26 日 第 3 回 SP 会
- 10 月 Post-CC OSCE 課題評価すり合わせ (11 月まで複数回実施)
- 10 月 17 日 Post-CC OSCE シナリオ練習会①
- 10 月 18 日 医学教育ワークショップ  
『医学部における倫理教育』  
講師：東邦大学医学部 教育開発室 廣井 直樹 先生
- 10 月 31 日 Post-CC OSCE シナリオ練習会②
- 11 月 7 日 Post-CC OSCE シナリオ練習会③
- 11 月 11 日 Post-CC OSCE (医学部 6 年生)
- 14 日
- 11 月 28 日 コミュニケーション論試験シナリオ練習会
- 12 月 4 日 コミュニケーション論試験 (医学部 1 年生)
- 12 月 21 日 医学教育ワークショップ  
『教育実践の共有』  
講演① 「地域・家庭医療学講座の BSL について」  
講師：地域・家庭医療学講座 菅家 智史 先生  
講演② 「神経解剖・発生学講座の授業について」  
講師：神経解剖・発生学講座 八木沼 洋行 先生

### 2024 年

- 2 月 13 日 新規 SP 養成講座①
- 2 月 14 日 医学教育ワークショップ (グループワーク・2 回開催)

- ・ 19日 『学生の臨床をアップさせるための方策』
- 2月 20日 新規 SP 養成講座②
- 3月 5日 新規 SP 養成講座③

## 模擬患者 (simulated patient; SP) の会

福島医大医学部模擬患者 (simulated patient; SP) の会は2009年に発足し、医療面接実習、4・5年生のBSL、各種試験等で活躍してきた。今年度はSP会を開催し、医学部試験及びBSLにて、SPにご活躍いただいた。

### 2023年度SP会

1. SP会：対面式とZOOMによるオンライン参加のハイブリッド方式で開催した。
  - 3月           オリエンテーション
  - 5月           医療面接のおさらい
  - 9月           質問の意図とは？／教員による講演
  
2. 医療面接実習とSP演習（医学部4年生）
  - 6月           シナリオ練習（2回）
  - 7月           医療面接実習
  - 9月           SP演習
  
3. 共用試験OSCE（医学部4年生）
  - 8月～9月   シナリオ練習（2回）
  - 9月           OSCE、OSCE再試
  
4. 共用試験OSCE（医学部6年生）
  - 10月～11月  シナリオ練習（3回）
  - 11月           OSCE
  - 12月           OSCE再試
  
5. コミュニケーション論試験
  - 11月           コミュニケーション論シナリオ練習（1回）
  - 12月           コミュニケーション論試験
  
6. 新規SP養成講座  
2～3月にかけて、新規SP養成講座を3度開催し、新規SPを養成した。
  
7. 認定標準SPパフォーマンス評価の対策講座  
8月に2回、2～3月にかけて3回、認定標準SPパフォーマンス評価の対策講座を行った。
  
8. 他大学OSCEへの協力  
7月   医療面接兼身体診察SPとして他大学の臨床実習後OSCEに参加した。

## クリニカル・スキルス・ラボラトリー（スキルラボ）

本学のスキルラボはシミュレーション学習施設として2009年4月にオープンし、9年目の2017年度には利用者のアクセスと学習内容を考慮して、スキルラボ・きぼう棟を開所した。従来からのアドバンス、ベーシック、手術室を含めた4部構成として運用しており、医学生をはじめ、看護学生、教員、臨床研修医、附属病院スタッフなどが幅広い目的で利用している。2019年10月には、IoT技術を利用した入退管理システムを開発し、スキルラボ・きぼう棟にて試験的に運用を開始した。シミュレータや設備の充実を図りながら、多様なニーズに合わせたトレーニングができるよう利用者の視点で工夫を重ねている。

### 【1. 施設概要】

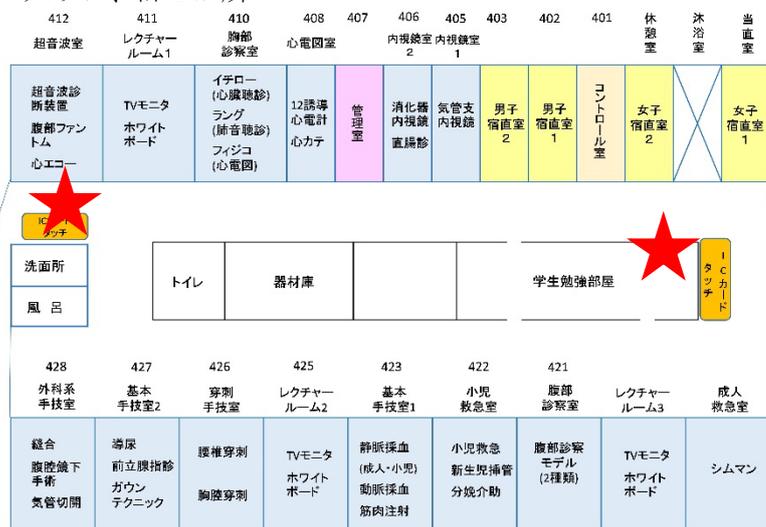
スキルラボ・きぼう棟（きぼう棟4階西）245 m<sup>2</sup>（2017年4月オープン）

病棟をそのまま利用し、手技毎に部屋を設定し、シミュレータ・機器を常時設置している。採血や導尿などの基本手技から腹腔鏡下手術などの高度な診療技能をトレーニングするシミュレータを整備し、医学生や臨床研修医を中心に利用されている。

2019年10月に、IoT（Internet of Thingの略。センサー機器、電子デバイスなどの様々なモノ「物」がインターネットに接続され、情報交換することにより相互に制御する仕組みである）技術を利用した入退管理システム（★）を開発し導入した。

#### ★設置場所

・東西の入り口、計2か所



設置風景（西側入り口）

#### ★利用方法

入室の前に、自分の目的と当てはまる項目をタッチして、自分のICカードで簡単に入室登録を行う。ICカードをかざしたら「入室を登録しました」と「自分の名前などの情報」が表示し、確認することができる（事前にカードを登録した場合）。

### スキルラボ・アドバンス（4号館5階）310㎡

広いオープンスペースを保有しており救急蘇生トレーニングや模擬患者（simulated patient；SP）養成講座に活用されているほか、医療面接・診察録画フィードバックシステムを活用して医療コミュニケーション学習に活用されている。

### スキルラボ・ベーシック（8号館2階）481㎡

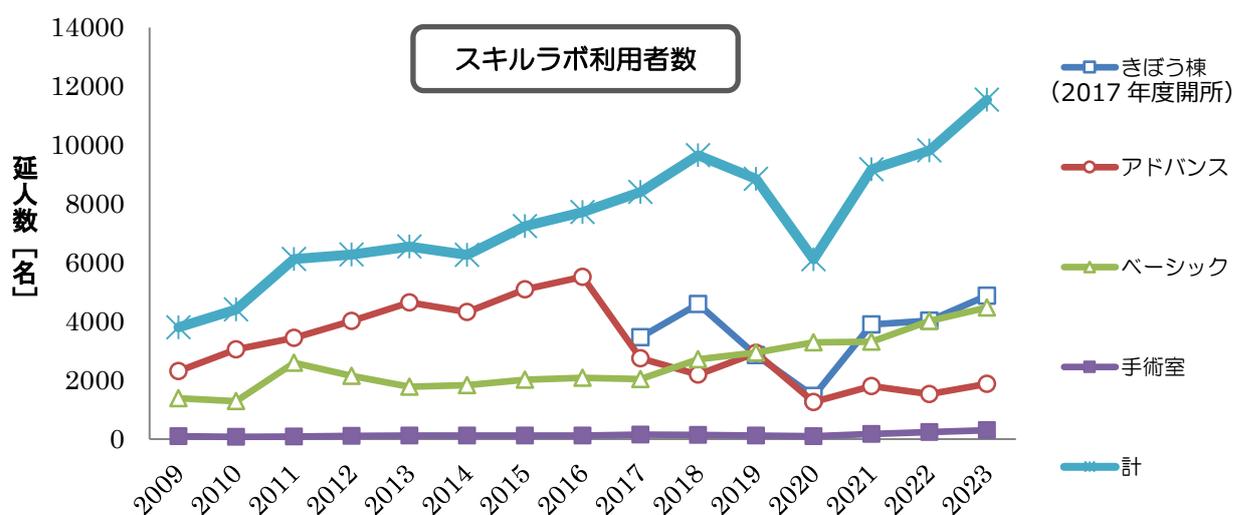
基本的な診察手技やベッドサイドでの患者の診察・処置・ケアが大人数で学習できるようにレイアウトされた学習スペース。看護学生や看護師がフィジカルアセスメントや採血手技などを学習できるようシミュレータを配置している。

### スキルラボ・手術室（附属病院2階）12㎡

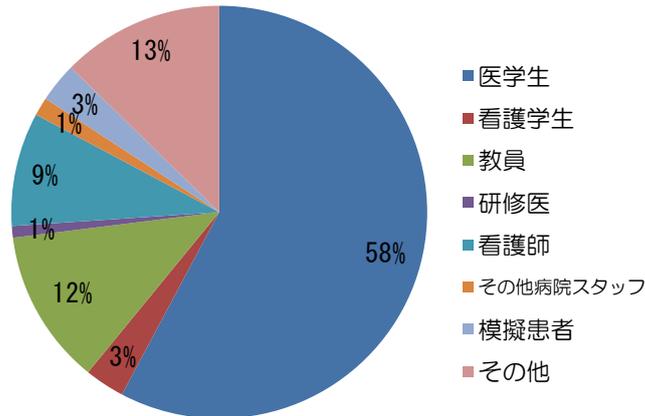
2021年9月に麻酔科外来に移転した。全身麻酔に伴う呼吸・循環の変化、急変対応が高性能シミュレータで学習できる。

## 【2. 利用実績】

2017年に開所した「スキルラボ・きぼう棟」は、前年度までスキルラボ・アドバンスで活用されていた多くのシミュレータを移動して各室に設置し、医学部4～6年生への各診療科BSLで多く活用されている。オープン後3年目（2011年度）以降は、年間6,000余名の利用が続いており、きぼう棟を開所した2017年度の年間延べ利用者数は8,000名を超えた。新型コロナウイルス感染症の影響により、一時的にスキルラボの利用者数は減少したが、感染対策を実施して授業を中心に活用され2023年度は11,000名を超える利用があった。

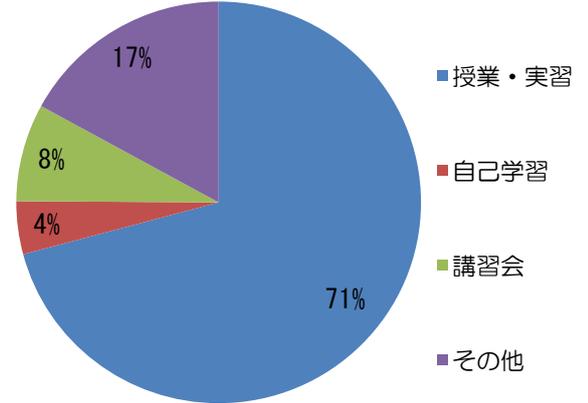


利用者内訳



2023 年度 延 11,540 名

利用目的内訳



2023 年度 775 件

< 利用例 > 下線 は 2023 年度より新規利用

【医学部】

(1) 臨床実習 B S L (医学部 4、5、6 年)

- |               |  |
|---------------|--|
| ・循環器内科学講座     | … 心音・心雑音聴診、心エコー、心臓カテーテル手技、12 誘導心電図、レクチャー (心疾患、循環器の薬) |
| ・消化器内科学講座     | … <u>腹部診察</u> 、消化管内視鏡検査、 <u>講義 (消化器疾患症例検討)</u>       |
| ・腎臓高血圧内科      | … 静脈採血、末梢ライン確保、 <u>胸部身体診察</u>                        |
| ・脳神経内科学講座     | … 腰椎穿刺、頸動脈エコー実習                                      |
| ・呼吸器内科学講座     | … 呼吸音聴診、気管支内視鏡検査                                     |
| ・外科①          | … ガウンテクニック、腹腔鏡下手術                                    |
| ・呼吸器外科学講座     | … 胸腔穿刺   |
| ・整形外科学講座      | … 外科手術実習、医療安全  |
| ・小児科学講座       | … 小児静脈ライン確保、乳児救急蘇生                                   |
| ・泌尿器科学講座      | … 導尿、前立腺指診、腹腔鏡下手術                                    |
| ・耳鼻咽喉科学講座     | … 気管切開、気管カニューレ交換                                     |
| ・神経精神医学講座     | … 腰椎穿刺   |
| ・麻酔科学講座       | … 麻酔、呼吸管理  |
| ・救急医療学講座      | … FAST   |
| ・臨床検査医学講座     | … 静脈採血   |
| ・検査部          | … 腹部エコー  |
| ・医療人育成・支援センター | … 医療面接、カルテの書き方                                       |

(2) 臨床実習入門 (医学部 4 年) …… 各種診察手技、採血、心電図、清潔操作、ガウンテクニック漢方医学Ⅲ、乳房診察、救急

(3) 人体機能学概論 (医学部 1 年) …… 循環器内科(心電図・心臓聴診実習)、手洗い

#### (4) OSCE

- ・ OSCE 事前準備 …… 評価者すり合わせ
- ・ 医学部 4 年 …… 臨床実習前 OSCE
- ・ 医学部 6 年 …… Post-CC OSCE

#### (5) 自己学習 (医学部 4、5、6 年)

OSCE 前：呼吸音聴診、腹部診察、神経診察、身体診察、乳房診察、血圧測定、心電図、直腸診、頭頸部診察、救急、採血、縫合、腰椎穿刺、気管挿管  
その他：呼吸器内視鏡

#### (6) オープンキャンパス

#### 【看護学部】

- ・ 基礎看護学部門 (看護学部 1・2 年) …… 看護技術とアセスメントⅢ  
ナースユニフォーム試着、販売
- ・ 成人・老年看護学部門 (看護学部 3 年) …… 領域別実習
- ・ 別科 助産学専攻 …… 妊娠期助産診断技術学のエコー
- ・ オープンキャンパス

#### 【附属病院】

- ・ 看護部 …… プリセプター育成研修、BLS 勉強会、急性期看護Ⅰ・Ⅱ研修  
新人看護師研修、看護助手研修、夜勤看護助手研修
- ・ 研修医 …… オリエンテーション、BLS/ACLS 講習会

#### 【その他】

- ・ 看護師特定行為研修センター …… 各種技術研修、OSCE
- ・ 救急トレーニングコース …… AHA BLS ヘルスケアプロバイダーコース  
AHA ACLS プロバイダーコース  
ファーストエイド実技コース  
小児の二次救命処置 PEARS  
BLS プロバイダーコース
- ・ 放射線医学県民健康管理センター・甲状腺検査室 …… 実技演習ワークショップ
- ・ ふくしま子ども・女性医療支援センター …… ハンズオントレーニングガイダンス
- ・ メディカルセミナー …… 小児科、整形外科、泌尿器科

- ・ 福島県看護協会 …… ふくしま助産師実践力向上研修
- ・ 自己学習（研修医、医師、医療技師）……気管支内視鏡、消化器内視鏡、超音波検査、採血

- ・ SP 養成講習会
- ・ 教育研修支援課 …… 医学部入試（面接室）

【長期貸出】

- ・ 放射線災害医療学講座 …… シムマン（エッセンシャル）1台  
シンチレーション式サーベイメーター（ZnS）1台  
シンチレーション式サーベイメーター（NaI）5台  
GM管式サーベイメーター 5台
- ・ 耳鼻咽喉科学講座 …… 耳の診察シミュレータ EAR 1台
- ・ 研修医室 …… 縫合手技トレーニング腕部セット 2セット
- ・ 救急医療学講座 …… セーブマン・アドバンス 1体

【スキルラボ利用の様子】



医学生の心電図実習



高校生の大学見学（スキルラボ体験）



中学生の大学見学（職業体験）



看護部の新人研修

## OSCE

2006年度より医学部4年生対象に実施している臨床実習前OSCE、2020年度より正式実施となった6年生対象の臨床実習後OSCEに関して、Covid-19の影響により2020年度から実施課題数や評価者数、医療面接・身体診察の模擬患者(simulated patient; SP)などについて特例措置が講じられていたが、今年度はどちらもほぼ通常通りの試験を実施することができた。

### I. 共用試験臨床実習前 OSCE

医師法の一部改正に当たって、2023年4月1日以降から臨床実習前OSCE・CBT(Computer Based Testing)に合格した医学生が、診療参加型臨床実習において処方箋の交付以外の医行為を医師の指導監督の下で行えるようになった。

臨床実習前OSCEは今年度よりCBTとともに公的化され、すべての大学において同一の基準で試験が行われる様になった。受験の可否は、CATO(医療系大学間教養試験実施評価機構)が統一合格基準に基づき判定することとなった。これによって課題数は全国的に下記の8課題で統一された。(今後、四肢脊柱、感染対策を加えた計10課題の実施が検討されている。)

#### 【Pre CC OSCE (2023年度)】

実施日：2023年9月14日(木)、9月16日(土)

対象：医学部4年生全員(2023年度137名)

受験課題：「医療面接」「頭頸部診察」「腹部診察」「神経診察」「胸部診察」「全身状態とバイタルサイン」「基本的臨床手技」「救急」の計8課題

評価者：臨床系講座及び医療人育成・支援センター教員、CATO派遣の外部評価者

場所：スキルラボ・きぼう棟、8号館4階

### II. 共用試験臨床実習後 OSCE

共用試験臨床実習後OSCEでは、卒後臨床初期研修の開始時に必要とされる臨床能力のうち、以下の内容が臨床現場に即して定められた時間内に適切に実施できるかを評価する。

- ① 医療面接、身体診察
- ② 患者の状態への配慮、並びに心理的・社会的背景への配慮
- ③ 医療安全・感染対策の遵守
- ④ 得られた情報に基づく病態の解釈と頻度の高い、あるいは重要な疾患の想起(臨床推論)
- ⑤ 上級医への症例プレゼンテーション

#### 【Post CC OSCE (2023年度)】

実施日：2023年11月11日(土)、14日(火)

対象：医学部6年生全員(2023年度129名)

受験課題：症例指向性臨床技能試験(16分)3題

臨床技能試験(5分)3題

課題構成：症例指向性臨床技能試験(16分)

課題1 医療面接・身体診察(12分)

課題2 情報整理・指導医への報告 (4分)

臨床実技試験(5分)

BSLで修得した検査手技、検査所見の報告など (5分)

評価者：臨床系講座及び医療人育成・支援センター教員、CATO派遣の外部評価者

場所：スキルラボ・きぼう棟、8号館4階

## 指導者養成 (Faculty Development : FD)

大学設置基準では、年に1回以上のFD参加を大学教員の義務としている。近年の傾向として、CBTや進級試験のブラッシュアップや、6年生の総括講義の質向上のFDを教務委員により企画されて行われているが、これらは対象となる参加者が試験作題者や授業担当者などに限定されてしまう。そこで、医療人育成・支援センターでは、新任・昇任教員と対象とした研修、OSCEシナリオブラッシュアップ研修に加えて、日常的な教育現場での課題を題材としたテーマを考え、全ての医学部教員を対象としたFDを企画して実施している。2022年度のFDは新型コロナウイルス感染症の影響で、Zoomによるオンライン開催が中心であったが、2023年度は全て対面式に戻り、フェイス to フェイスで実施した。医療人育成・支援センターが主催した2023年度のFDの参加者の総数は192名であった。以下に内容を示す。

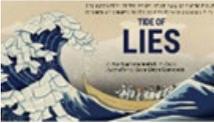
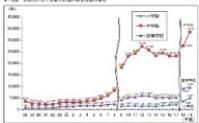
開催日	場所	タイトルと内容
2023年4月27日(木) 2023年5月12日(金)	8号館 S101	<p><b>「新任・昇任教員研修」</b></p> <p>参加者数：4月27日32名、5月12日17名</p> <p>福島医大に新任教員として赴任した教員、若しくは昇任した教員に向け、本学の卒前教育の仕組みなどを伝えた。また、試験の在り方の議論を通して、医学部教育の意義について考えを深めた。</p> <p>講師：医療人育成・支援センター 亀岡弥生 先生</p>
2023年6月30日(金)	災害医療・産業 医療棟7F会議室	<p><b>「パフォーマンス・マネジメント」</b></p> <p>参加者数：30名</p> <p>最近の学生の特徴と、モチベーションの引き出すための方策について話し合い、更に、実際の講義や指導で使えるような工夫を考えた。</p> <p>講師：認知行動コンサルティングオフィス・臨床心理士 岩野卓 先生</p>
2023年10月18日(水)	8号館 S101	<p><b>「医学部教育における倫理教育」</b></p> <p>参加者数：30名</p> <p>医学教育の国際基準では、医療倫理教育を系統的に行うことが必須とされている。本FDでは、特徴的な倫理教育を実践している東邦大学医学部から講師をお呼びして、福島県立医科大学における倫理教育の在り方についてディスカッションを行った。</p> <p>講師：東邦大学医学教育センター 廣井直樹 先生</p>

2023年12月21日(水)	光が丘大会議室	<p style="text-align: center;"><b>「教育実践の共有」</b></p> <p>参加者数：41名</p> <p>医学部4・5・6年生の事前アンケート(回収率約70%)で評価の高かった神経解剖・発達学講座の授業および地域・家庭医療学講座のBSLについて、担当教員の講演を聴講し、参加者自身の授業をより充実させるための方策を考えた。</p> <p>講師：①神経解剖・発生学講座 八木沼洋行 先生 ②地域・家庭医療講座 菅家智史 先生</p>
2024年2月14日(水) 2024年2月19日(月)	スキルスラボ・アドバンス	<p style="text-align: center;"><b>「学生の臨床技能をアップさせるための方策」</b></p> <p>参加者数：2月14日26名、2月19日16名</p> <p>事前に各講座の行動目標と評価項目について確認してもらい、BSLにおいて、学生に「この科ではこれを学んだ」と言われるための評価およびフィードバックの方法について計画を立て、意見交換を行った。</p> <p>講師：医療人育成・支援センター 亀岡弥生 先生</p>

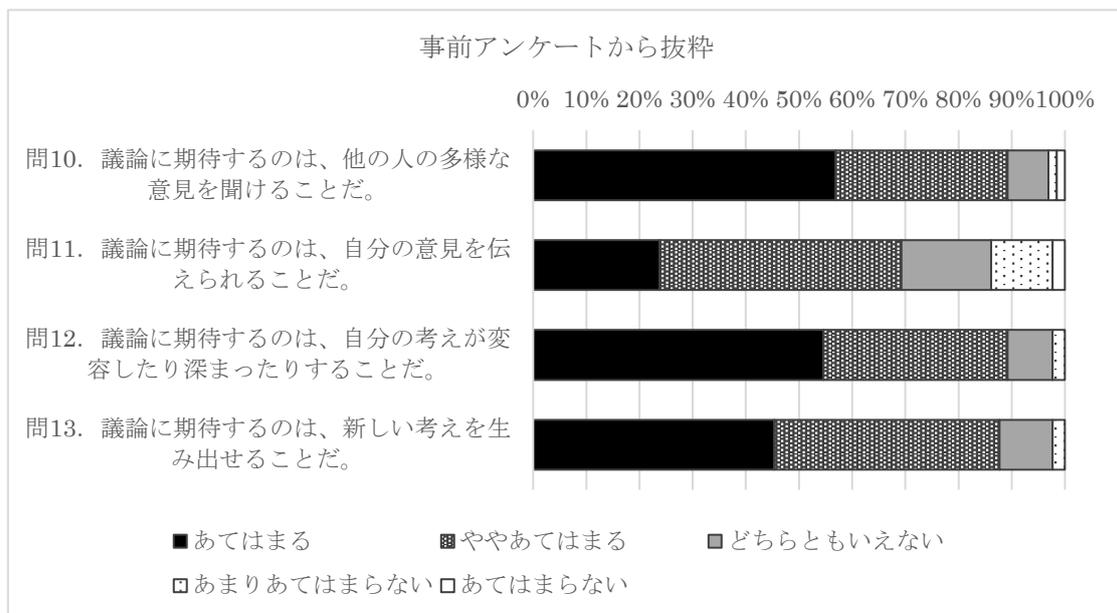
## チュートリアル準備教育「チュートリアル1」

Problem-based learning (PBL)は、1960年にカナダのマクマスター大学で開発された、課題を発見する能力・自学自習の習慣・問題解決能力・集団行動能力の獲得を目的とする授業方法である。学生は小人数のグループに分かれて、チューターの助言を得ながら提示された現象から課題を抽出し、課題解決を図る。しかし、東アジアの国々では欧米の大学が報告しているほど学生の議論が盛り上がりがないという報告があり、本学のチュートリアルも調べものを分担して発表するだけの授業になりがちであるとの報告が毎年チューターの先生方から出されていた。そこで2021年から、議論の意義とその方法を学ぶためのチュートリアル準備教育「チュートリアル1」を、医療人育成・支援センターが開発し担当するようになった。

「チュートリアル1」の主な学習目標は、(1)一つの事象を多様な視点から考えることの重要性を体得する (2)自分なりの疑問を持つことができる (3)自分の考えを自分の言葉で論理的かつわかりやすく説明できる、の3点である。130名の新入生を5~6人から成る24班に分けて、「自身の考えの記述」⇒「グループワーク」⇒「グループ間ワーク」⇒「講義」の順で進めることによって、興味とレディネスを高め、学生には予め配布したポートフォリオに授業中の思考過程を記入してもらい、学習者評価は、ポートフォリオに基づいて行った。

日時	テーマ	内容
4月20日 (水)	IV	<p>大学で学ぶということー多角的視点の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医師憲章3つの原則と10の責務を提示。</li> <li>・ 原則と責務の間に対立が生じる事例（「エホバの証人信者の娘への輸血」、「遺伝子診断による不都合な真実」）について自身の考えとグループの考えをまとめ、ロールプレイで実践。</li> </ul>
	V/VI	<p>議論の作法1 「必ず疑問を持つ」ー質問の意義と質</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ (個人) 提示された図に対して可能な限り質問を書きとめる。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ (グループ内) 疑問を共有、マトリックスを作成して分類、”イチオシ質問“を選出した。</li> <li>・ (グループ間) マトリックスを交換し、”イチオシ質問“とそれを選んだ理由を伝え合った。</li> <li>・ (グループ内) 通常のPBLチュートリアル形式で図(医学的テーマ)を見て質問を抽出し、調査を分担した。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

4月27日 (水)	IV/V	議論の作法2 「自分の言葉で 伝えよう」－質 疑応答の作法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(講義)「発表者と聴衆両者に利益をもたらす質問の仕方」</li> <li>・(グループ内) 通常のPBL テュートリアル形式で各自の調査結果を発表→質疑応答→グループのベストアンサー作成。</li> <li>・(グループ間) ベストアンサーを発表し合い、質疑応答。</li> </ul>
5月16日 (月)	IV/V	医師の守秘義務 について考える (帰納的思考と 演繹的思考)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師が守秘すべきか迷うケースにおいて、医師の取るべき行為を、個人で思考→グループ討論→全体共有。</li> <li>・守秘義務が適用されない場合の条件を、個人で思考→グループ討論→全体共有。</li> <li>・(講義)「法的視点からみた医師の守秘義務」 講師：人間科学講座教授 藤野美都子先生</li> </ul>



## 人体機能学概論「手洗い実習」

医学部1年生の授業「人体機能学概論」では、医療者として身に付けていなければならない基本的技術として「手洗い実習」を実施している。手洗いは感染対策、医療安全の基本であり、本授業では講義と実習に加え、OSCE形式で実技試験を実施しました。授業は各テーブルに水道設備のある実験室を使用し、学生5~6人を1グループとして行った(図1)。講義では、①医療における手洗いの歴史、②手洗いのエビデンス、③動画視聴を行った。達成度の評価として、講義の一週間後に知識テスト(○×式14問)と実技試験を行った。知識テスト(表1)では14点満点中、平均点は11点であった。実技試験(表2)では12点満点中、平均点は11.8点であった。

表1. 知識テスト

1	流水手洗いをする前に袖をまくるべきである
2	石鹸と流水の手洗いは、2回繰り返すと最も効果が高い
3	手洗いの祖、センメルヴェイス医師は、パスツリゼーションからヒントを得て手洗いを励行した
4	医療従事者にとって、手指衛生をする最優先の目的は、自分が病気になるためである
5	通過菌とは常在菌のことである
6	手を拭いたペーパーは普通のゴミ箱に捨ててよい
7	石鹸と流水による手洗いにより、常在菌をゼロにすることができる
8	アルコール製剤は流水手洗いよりも効果が薄いとされている
9	ベッド柵などに触れても、患者に触れていない場合は手指衛生は必要ない
10	患者に触れたあとでは、アルコール消毒よりも流水手洗いを優先すべきである
11	マニキュアや長い爪であったとしても、きちんと手洗いすれば問題ない
12	目に見える汚れがあった場合、その部位にアルコールを大量に吹き付けるとよい
13	手洗いで洗い残しが多い部分は、小指周辺である
14	ジョセフ・リスターの推奨により手洗いおよび器具の消毒が普及したのは1970年代からである

図1. 授業の様子



表2. 実技試験 人体機能学概論 手洗い実習 実技チェックリスト

	学籍番号		
教員	氏名	できた	できない
1	手洗い前に確認することを聞く(汚れ、爪、指輪、腕時計)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	手洗い前に袖をまくった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	水道水で手全体を洗った	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	ソープを取り手掌と手背を丁寧に洗った	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	指間を洗った	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6	左右の母指を対側の手指で握り丁寧に洗った	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	手掌で指先・爪部を丁寧に洗った	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	手関節の周囲まで洗った	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	流水でしっかり石鹸を洗い落とした	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10	蛇口を直接手で触れないように水を止めた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11	使用後のペーパータオルを非感染用のゴミ箱に廃棄する	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12	全工程に1分以上かけた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

## 早期ポリクリニック

早期ポリクリニック（早期ポリクリ）は、1年生の1学期に病院の様々な部署を見学する2日間の実習で、医療人になるという自覚の形成、基本的マナーの習得に加えて、医療が様々な職種の人たちによって支えられていることを知ることを目的としている。テレビドラマの舞台となる外来、病棟、手術室、救急センター以外にも医師が担う仕事がある。そして全ての医療業務は医療専門職以外の人達が休みなく稼働させるシステム無しには成り立たない。

早期ポリクリでは、患者として病院を訪れる際には目にしない病理部や救命救急センター等の中央診療部門と、物品供給センター、焼却炉などの管理部門を班ごとに1日かけて回り、もう1日は病棟で看護業務と医師の業務を見学する。管理部門の見学は2015年から早期ポリクリに組み込まれた。中央診療部門と管理部門の見学後と病棟体験後に、実習で見たり体験したりしたことから、プロフェッショナルとはどういうことかを各自で考察し、レポートを提出した。

また、病院実習に向かう準備教育として、医療現場に必要な接遇の授業 2022年度から導入し実施している。

### 【実施概要】

日程	I 群 (65名)	II 群 (65名)
5月15日(月)	医療接遇 13:00-14:20 (医療現場で必要とされる接遇)	
6月21日(水)	オリエンテーション 13:00-17:30 (病院長講話、看護部長講話、中央診療施設・管理部門の概要説明、 病院実習に向けたGW)	
6月22日(木)	病棟体験実習 9:00-16:00	中央診療施設・管理部門見学 8:40-17:20
6月23日(金)	中央診療施設・管理部門見学 8:40-17:20	病棟体験実習 9:00-16:00

### 【協力部署】

#### ○病棟体験実習

- ・福島県立医科大学附属病院 (14病棟)

#### ○中央診療施設・管理部門見学 (14部署)

- ・手術部                      ・材料部                      ・病理部                      ・検査部                      ・放射線部
- ・患者サポートセンター                      ・放射線災害医療センター
- ・救命救急センター                      ・リハビリテーションセンター
- ・病歴室                      ・焼却炉                      ・中央監視室                      ・防災センター                      ・物品供給センター

## 地域実習 1

医学部 1 年生は、地域で暮らす高齢者や障がい者にとって、健康的な生活を送るとはどのようなことなのか、考えを深めることを目的として、9 月に地域実習 1 として 3 日間にわたり地域の施設で実習を行う。しかし、2020 年から 2022 年までは、新型コロナウイルス感染症の流行により施設実習が中止となり、大学内で代替実習を行ってきた。2023 年 5 月より新型コロナウイルスが 5 類感染症へ移行したことにより、今年度より施設実習が再開した。一人の学生は、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、重度心身障がい児(者)施設のうち、2 種類の施設で実習を行った。表 1 に高齢者施設でのダイアリー例を掲載する。実習先の施設は福島県北地域と白河地域の多数の施設の協力を得て実施している。

本授業では施設実習に先立ち、①施設で生活する高齢者の特性、②障がい児介護の実際の 2 つの講義を行う。また、施設実習での課題として、生活の場で発生する倫理的ジレンマについて考察することを課した (表 2)。

表 1. 高齢者地域実習ダイアリーの一例

時間	実習内容	感想等
9:30	オリエンテーション 施設長挨拶	ホテルのような入り口で特別養護老人ホームには見えなかった。
10:10	施設案内	都市部の施設は階が多くマンションのようになっていたが、郊外の施設は平屋建と対照的だった。
10:30	入居者との関わり	92歳の認知症の方と話した、とても認知症とは思えないほど悉皆と話して下さってとても驚いた。
12:00	食事介助及び食事	ゼリー状の物を飲んでいる方が飲むことを嫌がっていて、その様子から介護の大変さが分かった。
13:00	休憩	利用者さんと同じ食事をとった、利用者さんの健康を第一にしていることが分かった。
14:00	利用者との関わり リハビリ・運動の介助	デイサービスの利用者さんと一緒に運動をした、想像していたよりも元気で驚いた。
15:00	講話・質疑応答	介護の仕方を工夫することで、認知症に関するトラブルを避けられるということに驚いた。

表 2. 施設で感じた  
倫理的ジレンマ

行動の制限のメリットデメリットについて
老健が退院後家に帰れないご老人の居場所となっていることは、正しいことなのか？
食事の意思表示を確認しないままの提供することの是非
入居者のプライバシーは守られているのだろうか
認知症の方に知る権利はないのか
障害を持った人を解放的空間におくことは可能なのか
リハビリに期間が設けられていることについて
認知症患者の移動制限
安全の為に身体を拘束する事は許されるのか？

# コミュニケーション論

1年生は9～12月にコミュニケーション論の授業がある。内容は、心理学的コミュニケーション論と、医療コミュニケーション論の二つの観点からコミュニケーションについて学ぶ。

## 1. 心理学的コミュニケーション論

患者と接する上での基本的コミュニケーションを取得することを目的とした授業を展開している。特に、傾聴・共感的コミュニケーションをとることができるように、非言語的コミュニケーション、質問、言い換え、要約、感情の反映といったコミュニケーションを学ぶ。

### ①授業形式

座学、カウンセリング場面の動画視聴と課題抽出、グループディスカッション、iPadでの非言語的コミュニケーションの撮影と視聴、体験ワーク



カウンセリング場面の視聴動画

### ②授業内容

コミュニケーションの概要、非言語的コミュニケーション、質問、要約・言い換え、是認、感情の反映、まとめ

## 2. 医療コミュニケーション論

医療専門職として診断のために必要な情報収集技能の基本を習得する。医療面接の基本、各テーマの疾患に関する講義を受講後、各テーマに沿った医療面接のロールプレイを学生同士で行います。グループ内で医師役、患者役、観察役を担当し、医療面接のロールプレイを行なった上で何の疾患かを考えてもらう。

第1回テーマ「腹痛」（担当：地域家庭医療学講座 中村光輝）

第2回テーマ「頭痛」（担当：医療人育成・支援センター 安田恵）

## 3. コミュニケーション論試験

コミュニケーション論の総決算として、模擬患者（simulated patient; SP）に協力してもらい、共用試験OSCEを模した試験を実施した。学生は白衣を着た正装で、制限時間5分間で医療情報を聴取する試験に臨む。

試験で良くできていた点、出来ていなかった点に関しては後日全体フィードバックを行っている。

## 基礎臨床統合授業

2021年度に開設した医学部2年生対象の「基礎臨床統合授業」を、基礎医学の知識を十分に使いこなすことを目的に一部リニューアルして行った。

「基礎臨床統合授業」は、臨床教員からの「基礎医学と臨床医学の繋がりを理解していないために病態生理の理解が不十分」、臨床実習前の学生からの「これまでの学習がどう繋がるのか分からず不安だ」、卒業生からの「臨床における生理学、解剖学、免疫学の重要性を卒前に理解していればよかった」との声に応じて、基礎医学と臨床医学を有機的に繋げるための基礎医学と臨床医学の統合授業である。昨年はコロナ禍のため遠隔授業であったが、対面の反転授業形式で行った。

- 【目標】 (1) 基礎医学の知識を使って主要病態を説明できる  
(2) 病気のメカニズムを暗記ではなく自分の頭で考えることができる

### 【授業の流れ】

- ① 事前学習：症例提示と課題開示→授業までに回答を提出 (google form)
- ② 授業前半 (1時間)：①の課題に対するグループベストアンサーを word に作成し、メールで提出→印刷して担当講師と共有
- ③ 授業後半 (50分)：担当講師がミニレクチャーを行いフィードバック
- ④ 事後学習：(i) 学生各自が事前学習を修正してマイベストアンサーとして提出  
(ii) グループベストアンサーを講師が採点してグループメンバーに返却

### 【実施スケジュール】

1	2023年 12月22日(金)	ガイダンス		亀岡弥生、安井清孝
2	2024年 1月15日(月)	喘息	気管支像の読解・症状と検査値	狭間章博先生(生理学)
3	1月16日(火)		呼吸機能	橋本優子先生(病理学)
4	1月22日(月)		病態と治療	斎藤純平先生(呼吸器内科)
5	1月23日(火)	心不全	症状と検査値	狭間章博先生(生理学)
6	1月29日(月)		心機能	永福智志先生(生理学)
7	1月30日(火)		胸部X線と治療	及川雅啓先生(循環器内科)
8	2月13日(火)	糖尿病	1型糖尿病の症状	永福智志先生(生理学) 橋本優子先生(病理学) 島袋充生先生(糖尿病内分泌代謝内科学講座)

ファシリテータ：安井清孝、亀岡弥生

## TBL（第4学年：症候論とケーススタディ）

TBLとはTeam Based Learningの略で、グループで協同して問題を解くことにより、事前学習に基づいて学生がお互いに教え合い、学び合うことを狙いとしたアクティブ・ラーニングである。また、単に学習を促すだけでなく、授業に向き合う姿勢を加味した加点減点システムにより、お互いに切磋琢磨することを狙いとしたシステムである。本学では臨床実習前OSCE前の4年生の症候論でTBLを取り入れている。

2020年度は新型コロナウイルス感染症の流行のため、Zoomおよびメンチメーターを活用した遠隔教育で実施した。2021年、2022年度は、第1・2臨床講義室の2部屋を使用し、ある程度距離を確保してグループ学習を行ったが、2023年度は通常通りに第2臨床講義室1部屋で行うことができた。グループ内で活気ある議論を行いながら、時に担当教員と意見を交わしながら授業を進めていくことができた。

### 2023年度授業日程・テーマ

Unit	日時	テーマ	担当
	5月15日（月）	ガイダンス	
	5月22日（月）	オリエンテーション	
Unit1	5月22日（月）	体重減少①	濱口先生（総合内科）
Unit2	5月24日（水）	咳嗽	菅家先生（地域・家庭医療学講座）
Unit1	5月29日（月）	体重減少②	鈴木玲先生（消化器内科）
Unit3	5月31日（水）	血尿	中村先生（地域・家庭医療学講座）
Unit4	6月5日（月）	リンパ節腫脹①	濱口先生（総合内科）
	6月7日（水）	リンパ節腫脹②	菅家先生（地域・家庭医療学講座）
Unit5	6月12日（月）	意識障害①	安田（医療人）
Unit5	6月14日（水）	意識障害②	安田（医療人）
	6月26日（月）	確認テスト①	
Unit6	6月26日（月）	嘔気①	菅家先生（地域・家庭医療学講座）
Unit7	6月28日（水）	めまい①	菊地先生（耳鼻咽喉科）
	7月3日（月）	めまい②	安田（医療人）
Unit8	7月5日（水）	呼吸困難①	中村先生（地域・家庭医療学講座）
	7月10日（月）	呼吸困難②	小林淳先生（循環器内科）
Unit9	7月12日（水）	発熱①	菅家先生（地域・家庭医療学講座）
	7月19日（水）	発熱②	安田（医療人）
	7月26日（水）	確認テスト②	
	7月26日（水）	嘔気②（チャレンジ）	島袋先生（糖尿病・内分泌・代謝内科）

## 英語による医療面接

### The Medical Interview in English Course

Since 2019, a concerted effort has been made to improve English language education at FMU through the introduction of a 'Medical Interview in English' course to the Year 4 students. This is the first course to teach students **clinical skills** in English, forming a vital connection between the liberal arts English tuition in Years 1, 2 and 3 and real-world medical practice in English.

The course has been designed specifically for FMU students and is cost- and time-effective in its approach. The course facilitates the clinical development of FMU students into competent medical practitioners in English, ready for the international healthcare challenges facing an increasingly globalised Japan.

Students enter reluctant to use English and leave more confident in applying real-life medical skills in English and with a desire for further clinical English exposure. The primary focus is on **clinical education** and therefore students of **all English abilities engage deeply** with the material.

#### Course benefits

- Increased student enthusiasm and attendance at medical English extra-curricular teaching
- Deepens understanding of cultural differences and the effect on medical systems and communication style
- Establishes links between FMU and foreign residents in Fukushima

#### Course design

##### Curriculum delivery of global medical English standards

The course curriculum aligns with the Japan Society for Medical English Education Committee Guidelines (derived according to the World Federation for Medical Education standards) and supports students of all English levels without segregating abilities, through the use of educational frameworks promoting teamwork and peer learning.

#### Lectures

During the course, interactive lectures equip the students with the skills to:

- Conduct a medical interview in English using the Calgary Cambridge consulting model<sup>1</sup>, an evidence-based model for English medical interviewing widely used in UK medical schools
- Understand and navigate cultural differences in healthcare design and delivery and the impact on both patients and doctors
- Gain awareness of diseases that are more prevalent outside Japan and how to support patients with these conditions in Japan

A special bilingual digital lecture is delivered covering cultural differences in healthcare design and delivery, with invited guest speakers who hold international experience (Japanese physicians with international experience and foreign doctors with Japanese healthcare experience).

### **Simulated patient interviews**

Students conduct medical interviews in groups of 4–5 with a native-English-speaking simulated patient. Interviews are conducted over ZOOM, requiring students to apply telemedicine skills in an authentic setting. The patients give feedback after the interview and the students repeat the interview to apply learning from the feedback in real time, as supported by Kolb's cycle of experiential learning. Case scenarios are built for complexity and medical interest, with a focus on patient-centred interviewing in a culturally sensitive manner.

### **Team-based clinical reasoning**

Following the simulated patient interview, students actively participate in a team-based clinical session to deepen their integration of clinical medicine with the patient narrative and build clinical reasoning skills. Students work through a series of complex clinical questions as teams to form a differential diagnosis and management plan for the clinical cases.

### **Concept mapping**

To consolidate learning and facilitate assessment, students produce a concept map of learning during the course. The concept maps are an evidence-based approach to facilitate student consolidation of learning and to demonstrate learning for assessment without being restricted by English speaking ability. This course feature was presented at the international medical education conference, AMEE 2021.

### **Summary of key educational features**

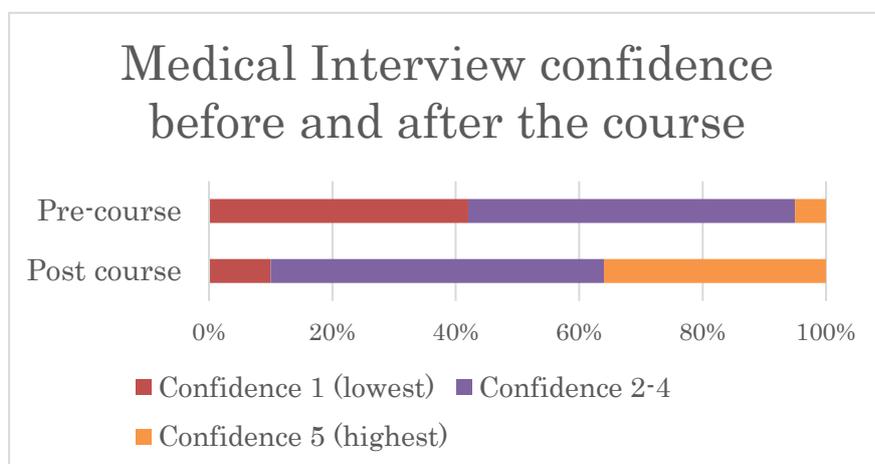
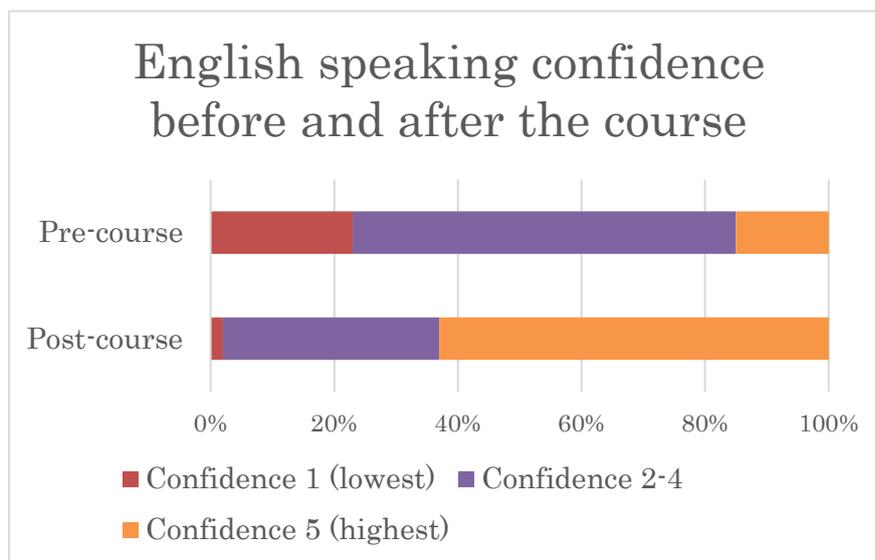
- Prioritises speaking skills and application of medical skills in English for all students
- Uses real-life clinical scenarios with native-English-speaking simulated patients

- Delivers authentic English clinical consulting frameworks in an evidence-based format to maximise learning and engagement
- Enhances student recall and performance through post-feedback repetition, with protected consolidation time
- Actively promotes telemedicine skills and clinical reasoning skills
- Students demonstrate team working and support peers

### Student achievement outcomes

In 2019, **94% of student self-rated scores (in reading/writing/speaking) improved in one area after the course, and 80% of students improved in two or more areas.**

Students self-rated their confidence through a Likert scale of 1(least confident)–5(most confident) with the following results:



### Student satisfaction

- This course is highly valued by students, receiving exceptional student feedback (Supplement 1).
- **In a recent survey investigating innovative and engaging teaching at FMU, this course was one of the most frequently named courses by students.**
- **In this survey, 24% of Year 4 students rated this course as the most intellectually stimulating/exciting/where they learnt something new out of all their teaching so far.**
- Many students have commented that they wish to have more experiences like this, and particularly value the opportunity to speak with native English speakers and apply authentic clinical skills in a supportive environment.

### **Update 2023 Course**

The 2023 course was successfully completed with a total of 137 participating students. In addition to the established format described above, the 2023 course featured a session titled 'Culture in the Clinic', a bilingual interactive session focused on cultural differences in healthcare. This session uses digital media and interviews with doctors from Japan and the UK to examine real life experiences of practicing medicine in international healthcare settings and features a live question and answer session with students. This session showcases the value of international experience and facilitates real world experience with critical evaluation and reflection.

### **References:**

1. Main CJ, Buchbinder R, Porcheret M, Foster N. Addressing patient beliefs and expectations in the consultation. *Best Pract Res Clin Rheumatol*. 2010;24(2):219-225. doi:10.1016/j.berh.2009.12.013

## 多職種連携授業

2023年9月25日(月)1限目～6限目に看護学部4年生(78名)と医学部4年生(137名)が合同で多職種連携授業を行った。医学部生4名と看護学部生2名、または医学部生と看護学部生各3名ずつのグループを作り、6グループずつ8号館の6つの教室(S301、S302、S311、S415、S601、実習室A)に分かれ、以下の表にある3つの事例について資料映像を確認しながらグループで検討した。それぞれの部屋に教員(医学部・看護学部・保健科学部)が数名ずつファシリテータとして参加した。時間割・内容は以下のとおりである。

### 1) 多職種連携準備授業

2023年9月19日(火)5、6限

場所：事例1(骨折) 第1講義室

事例2(白血病) 第2講義室

事例3(肺がん) 第4講義室

#### 1. グループワーク1(15分)：(Google Slideに記載)

- (1) 医療チームを形成する他職種の役割(看護師、作業療法士、理学療法士、臨床検査技師、放射線技師、薬剤師、栄養士の役割、医療ソーシャルワーカーは必須)
- (2) 他職種が医師に期待する役割

#### 2. 動画視聴(約20分)

#### 3. 課題提示

I. 共通課題			
①	病態と検査結果(正常値を調べて数値を評価する)		
②	治療方針		
③	動画に出てきた薬物の作用機序と副作用		
II. 担当疾患ごとの課題			
	骨折	急性白血病	肺がん骨転移
④	牽引の目的とデメリット	急性白血病の分類と予後	ステージ分類
⑤	予後 治療成績 機能的予後	AML(M1)の治療成績	予後 肺がん自体の予後 骨転移の予後
⑥	骨粗鬆症の定義と病態	治療に伴う副作用発現機序とその対策	放射線治療に伴う副作用とその対策
⑦	高齢者の長期臥床の注意点	寛解の定義	癌性疼痛の管理

4. グループワーク 2 : 以下を Google Slide に記載して提出する (50 分)

- (1) 上記課題に対する回答
- (2) 上記以外の課題抽出
- (3) 抽出された課題に対する回答
- (4) 発表と質疑応答 (25 分)

2) 多職種連携授業

時間	内容
9:00～ 9:15	1. 授業開始あいさつ *6つの教室に分かれて集合 2. オリエンテーション *Zoomにて行う(担当 看護学部大川先生) *全体スケジュール *ワーク内容 *出席の確認方法について *各グループワークの記録用紙の提出について
9:15～ 9:30	アイスブレイキング グループのメンバーで自己紹介をする。 その際、チームとして何かをする際、自分が <u>得意とするところ</u> と、 <u>苦手とするところ</u> についても述べてもらう
9:30～ 10:50	部屋毎に担当教員の自己紹介 グループワーク①課題の取り組み ワークシートの内容について話し合い、ワークシート(1)を完成させて、発表の準備をする ワークシート(1)の提出:10:50まで
	10分休憩
11:00～ 12:10	<b>発表およびコメント①</b> 事例1:大腿骨頸部骨折患者について ① 動画視聴:18分41秒 ②2グループからの発表・質疑応答:15分 (1グループ発表5分・質疑応答5分) ③保健科学部の先生方からのコメント(Zoomにて) *各部屋からその職種に「求める意見」があれば、その部屋担当の教員(看護 or 医師)から全体へ共有 *上記を聞いた上でコメントする *各職種8分(含:各部屋からの意見共有)計32分 ・作業療法士・理学療法士・放射線技師・臨床検査技師
	昼食

13:10～ 14:20	<p><b>発表およびコメント②</b></p> <p>事例 2 : 急性骨髄性白血病患者について</p> <p>① 動画視聴 : 19 分 42 秒</p> <p>②2 グループからの発表・質疑応答 : 15 分 (1 グループ発表 5 分・質疑応答 5 分)</p> <p>③保健科学部の先生方からのコメント (Zoom にて)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 各部屋からその職種に「求める意見」があれば、その部屋担当の教員 (看護 or 医師) から全体へ共有</li> <li>* 上記を聞いた上でコメントする</li> <li>* 各職種 8 分 (含 : 各部屋からの意見共有) 計 32 分</li> </ul> <p>・作業療法士・理学療法士・放射線技師・臨床検査技師</p>
	10 分休憩
14:30～ 15:45	<p><b>発表およびコメント③</b></p> <p>事例 3 : 肺がん患者について</p> <p>① 動画視聴 : 23 分 40 秒</p> <p>②2 グループからの発表・質疑応答 : 15 分 (1 グループ発表 5 分・質疑応答 5 分)</p> <p>③保健科学部の先生方からのコメント (Zoom にて)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 各部屋からその職種に「求める意見」があれば、その部屋担当の教員 (看護 or 医師) から全体へ共有</li> <li>* 上記を聞いた上でコメントする</li> <li>* 各職種 7 分 (含 : 各部屋からの意見共有) 計 32 分</li> </ul> <p>・作業療法士・理学療法士・放射線技師・臨床検査技師</p>
	10 分休憩
15:55～ 16:10	<p><b>グループワーク②</b> チームワークの振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本日のグループワークを振り返り、<u>各々が一人で</u>ワークシート (2) をつける。</li> <li>・全員が評価を終えたところで、お互いに見せ合い、どのようなところに乖離があったかを振り返り、ワークシート (3) にまとめる。</li> </ul>
16:10～ 16:20	看護学部・医学部の先生方からのコメント

## 臨床実習入門

「臨床実習入門」は、「医療と社会」「症候論とケーススタディ」「プライマリケアと地域医療」とともに「医療入門1」を構成する4つのユニットのうちの一つである。OSCEと臨床実習(BSL)に先立って臨床技能を確実に修得するための科目で、医療面接、頭頸部、胸部、腹部、四肢脊柱、神経の各診察方法、バイタルサインの取り方、救急蘇生術、心電図、採血、直腸診、乳房診察、ガウンテクニックを学ぶ。医療人育成・支援センターでは毎年、医療面接実習と採血の授業を担当している。

### 医療面接実習

夏休み前に行われる医療面接実習では、医療面接の進め方について講義を受けた学生が一人一人、模擬患者(simulated patient; SP)を相手に10分間の医療面接を行い、自身の振り返り、同級生からのフィードバック、そして教員からのフィードバックを経て、よくできた点と今後の課題を把握する。医療人育成・支援センターの教員の他に、OSCEで医療面接課題を担当する評価者の先生方にご参加いただいた。

### SP 演習

OSCE前の医療面接練習として夏休み後に行われたSP演習は、医療面接実習での反省点をもとに、学生が一人一人様々な主訴を持つSPと10分間の面接を行い、SPからフィードバックを受けた。患者が自分の面接をどのように感じているのか直接聞ける機会は医師のキャリアにおいてほとんどなく、貴重な学修機会ということができた。

### 採血実習

臨床実習前OSCEのための採血実習である。健康診断で採血されている学生が、初めて針をもって、シミュレータの腕から採血を行う。教員の指導を受けながら、挨拶、採血前に確認すべきことの聞き取り、採血のための道具を準備、清潔を保った安全な採血及びごみの分別という一連の流れがスムーズにできるよう、三人一組となり練習した。

## 医療入門 2

「医療入門 2」は、OSCE と CBT に合格した 4 年生が、臨床実習の開始前に重要事項を総復習し、スキルを補強する科目である。その中で医療人育成・支援センターは、高度なスキルを要する医療面接、症例のプレゼンテーション、臨床実習での学習方法の授業を行った。

### 2023 年 10 月 5 日「行動変容を引き出す医療面接」

担当教員 青木俊太郎

患者に行動変容を促すために、医師がどのようなコミュニケーションをとると良いか？についてのレクチャーを行った。情報伝達の仕方や患者の動機を引き出す質問の仕方などについてのグループワークを行った。

### 2023 年 10 月 5 日「悪い知らせを伝える医療面接」

担当教員 亀岡弥生

「悪い知らせ」とは、将来への見通しを根底から否定的に変えてしまう知らせのことである。患者へのがんの告知を想定して、言葉による侵襲を与えることなく、どう伝えるべきなのか、「SPIKES」の原則を共有し、準備不足の面接と SPIKES に則った面接がそれぞれ患者やその家族の理解や治療に向かう心情にどのように影響を及ぼすのか、実際の面接の様子を DVD で視聴した。

### 2023 年 10 月 11・16 日「症例プレゼンテーション」

担当教員 安田恵

医療現場では様々なプレゼンテーションを行う必要があるが、その中でも外来や回診で上級医に報告する際に行われるショートプレゼンテーションに関するレクチャーを行った。実際にどのようにプレゼンテーションするのが良いかについてのグループワークも行った。

### 2023 年 10 月 16 日「臨床実習の学習リソース」

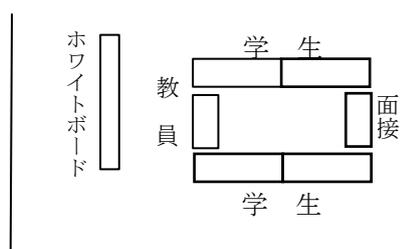
担当教員 諸井陽子

臨床技能手技のトレーニング施設である「スキルラボ」の利用方法や設置している医療機器・シミュレータの紹介と、本学で導入している臨床実習学習コンテンツ（moodle、Procedures CONSULT、今日の臨床サポート）の案内を行った。また、臨床実習中に起こりうる SNS 上での問題についてオンライン上で意見交換した。

## BSLプライマリーコースの医療面接実習

2011年度より医学部4～5年生の臨床実習（BSLプライマリーコース）において、模擬患者（simulated patient; SP）との医療面接を学習するプログラムを実施している。新規外来患者との医療面接を行う中で、診断に必要な情報を取得するための「臨床推論」と、慢性疾患患者の生活上の行動変容を促す「生活指導」、患者に悪い知らせを伝える「告知」などの応用的な医療面接のスキルを身につけることを目的としている。

スキルラボ・アドバンス内配置



### 医療面接の内容

1班6名から最大8名を対象に実施した。最初の1～2名に対して教員が臨床推論のプログラムを行い、後の5～6名を従来の医療面接シナリオで行った。2022年9月までは午後の時間に演習を行い、2022年10月からは午前中に臨床推論シナリオの演習をそれぞれの教員独自の様々なシナリオを用いて行い、午後は生活指導と告知のシナリオを利用したSPとの演習を行った。

### 症例プレゼンテーション

臨床推論を担当した学生は、指導医に対する症例プレゼンテーションをその場で考え、指導医に見立てた教員に対してプレゼンテーションを行った。

### SPとの実習

シナリオ	学生	概要
臨床推論シナリオ	1～2名	頭痛や全身倦怠感などのシナリオを用いて8分で初診患者の問診を行う。患者役は教員が行う。問診終了後に、教員主導で学生全員に対して鑑別診断から確定診断への流れについて考える。
生活指導・告知シナリオ	5～6名	生活指導および告知のシナリオを用いて10分で面接を行う。患者役はSPが行う。医療面接終了後にSPを含めて振り返りを行う。マハム・スタンヨン先生による英語によるフィードバックも実施する。

## Moodle を用いた臨床実習評価（自己評価および教員評価）

自己評価は、自己指導型の学習活動や自己改善のために、自分の弱点だけでなく強みを特定するのに役立ち、生涯学習における省察の要素として重要です。自分の弱点を理解することで、学生は何を学ぶ必要があるかを決定し、自分の強みを知ることによって自信を持って前進することができる。医学生は、学習や実習中に常にパフォーマンスを向上させるために、自分自身の学習ニーズを特定することが期待されている。そのため、正確で継続的な自己評価は、特に実習中の医学生にとって重要なスキルである。福島県立医科大学での医学教育改革の必要性から、私たちは提案されたツールを導入し、学生の自己評価と教員評価を促進し、臨床実習プロセスを改善するためにルーブリックに基づく評価を行った。同時に、オンライン学習管理システムである Moodle に基づく評価ツールを開発した。これにより、学生や教員が評価を完了しながら、学習目標や教育目標を確認できるようになった。この変更は、臨床実習を開始する 4 年生医学生向けに 2018 年に実施された。この評価ツールを使用して、どのように学生が自分の強みと弱点を特定したかを調査する必要がある。

福島県立医科大学の医療人育成・支援センター（CMECD）の BSL では、学生は模擬患者（simulated patient; SP）と医療面接を行い、同日に担当教員と学生自身が評価を提出する。そこで、教員の評価と学生の自己評価の一致を調べ、今後の課題を特定して日本医学教育学会に報告した（Tang Z, et al. Fukushima J. Med. Sci. 69:21-28, 2023）。

# オーディエンス・レスポンス・システム

## ～TurningPoint®の活用～

講義型の授業は同時に多人数に対して知識を供与できるが、学生がどの程度、授業内容を理解しているかを教員は把握しがたい。また、教員は学生のニーズや興味を捉えているかどうかかわからず、教員から学生への一方的な知識の押し付けになってしまう可能性もある。

医療人育成・支援センターでは、2010年より学生一人一人の意見を回収できるオーディエンス・レスポンス・システム（ARS）を導入し、医学部および看護学部の授業、臨床研修医向けのセミナー、附属病院内の講演会等での活用をサポートしている。

### 1. システムの概要

本学ではARSとしてTurningPoint®(KEEPAD JAPAN株式会社製。<http://www.KEEPAD.com/jp/index.php>)を利用している。専用ソフトで作成した質問のスライドに、名刺サイズのクリッカー（レスポンスカード）で回答すると、結果が瞬時に集計されグラフに表示される。授業に参加している教員と学生がその場で結果を共有することができ、全体の意見を踏まえた討論を実施し、学生の理解度に合わせた授業を展開することが可能になっている。



貸出用ARS一式  
レスポンスカード 120枚  
USBレシーバー 1台



レスポンスカード  
（回答送信器）



USBレシーバー  
（回答受信器）

※レスポンスカードは最大360枚まで対応可能です

### 2. 利用実績

利用年度	利用内訳（件数）				利用件数
	医学部授業	看護学部授業	講習会・セミナー	その他	
～2022年度	63	7	73	33	176
2023年度	0	0	2	0	2
合計	63	7	75	33	178

### 3. 利用方法・貸出・予約について

機器の予約、利用方法は医療人育成・支援センター スキルラボ管理室(内線 3387)に問い合わせる。スライドの作成等、不明な点は個別に対応している。詳細は医療人育成・支援センターのホームページ([http://www.fmu.ac.jp/home/cmecd/turning\\_point.html](http://www.fmu.ac.jp/home/cmecd/turning_point.html))に掲載している。

## 出前講座

中学校、高等学校からの要望に応じて、大学教員が各学校に出向き、将来、医学や医療に従事することに関心を持っている中高校生を対象に、医学に関する講義を行っている。医療人を志す高校生の医学や医療への興味関心を更に高め、本学各学部への進学意識や学習意欲を向上させる良い契機となっている。

### 【実施状況】

#### 出前講座

日 程	場 所	講 師 役	所 属
6月21日	福島県立橘高等学校	中村助教	地域・家庭医療学
9月15日	磐城高校	中里教授	循環器内科学
9月30日	安積高等学校	原田教授	法医学
10月10日	会津高校	大谷教授	医療人育成・支援センター
11月2日	会津学鳳高校	錫谷教授	微生物学
11月28日	千葉県立船橋高校	岩楯講師	脳神経外科学
11月29日	橘高校	栗田部長	臨床研究教育推進部
12月21日	ふたば未来学園高校	大谷教授	医療人育成・支援センター
2月28日	安積黎明高校	上田助教	疫学
年間12回	安積高等学校	坪倉教授	放射線健康管理学



## 学校見学

福島県立医科大学への理解を深め、医療系大学への進学意欲につなげるため、中学校や高等学校等の要望により大学見学を受け入れている。施設見学や模擬講義など、学内教員の協力を得て実施している。

2023年度は5校の大学見学を受け入れた。

### 【実施状況】

日程	見 学 校	模擬講義担当	所 属
8月3日	日本大学東北高校	遠藤助手	地域・家庭医療学
8月10日	磐城高校	河野教授	消化管外科学
8月30日	福島成蹊中学校	石亀講師	肝胆膵・移植外科学
		佐藤助教	
9月15日	会津学鳳中学校	小山教授	形成外科学
10月12日	茨城県立日立第一高校	大谷教授	医療人育成・支援センター



## オープンキャンパス

本学への入学志望の高校生等を対象に年 1 回、夏に実施されるオープンキャンパスにおいて、スキルラボを活用し「シミュレータを使用した外来診療体験」を実施した。

実施日：2023 年 7 月 15 日（土）

参加者：高校生 63 名

体験内容：

- ① 「聴診・心電図体験：命のリズムを感じてみよう」
- ② 「生体反応のモニタリング：心拍と呼吸をコントロールしてみよう」
- ③ 「エコー・手術体験：おなかの中を見てみよう」

体験の様子



## 2) 臨床医学教育研修部門

---



## ご挨拶

### 臨床医学教育研修部門の取組

臨床医学教育研修部門長  
大谷 晃司

2023年度の臨床医学教育研修部門の活動報告の詳細は、別項の通りです。2023年度は、5月から新型コロナウイルス感染症が5類感染症となったのに伴い、少しずつですが従来の活動が再開されて参りました。しかし、その形は必ずしも新型コロナウイルス感染症が蔓延する以前とは違うものも多いです。

2018年10月からはじまったBSL (bed side learning) の72週化も、制度としては定着してきました。しかし、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、臨床実習の中身は大幅に変更されてしまいました。ひとグループあたりの学生の人数が多くなったことに加え、感染症対策の名の下に、学生が患者さんと接する機会が著しく制限されてきました。患者さんと接する機会が減ったことに対する代替案がシミュレーション教育ですが、コロナ前と比べて、必ずしも増えているわけではないようです。また、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に区分変更になっても、なかなか学生が患者さんと接する機会が増えていないように思われます。

2022年度から、Post-CC OSCE が共用試験化、平たく言えば、医学部卒業要件になり、受からなければ卒業できないという試験となりました。福島医大では、共用試験機構の3課題と大学独自の3課題で11月に行ったのですが、6課題全てに合格したものは2022年度は45.7%、2023年度は58.1%であり、散々な出来でした。問題点として上がった点は、昨年度と同様に、総論としては、臨床実習がきちんと行われていれば、問題ないであろうと思われた内容が試験で出来なかったの、臨床実習の内容が問題ではないか？ということでした。一方、この学年の医師国家試験合格率は97.7%(現役不合格者は3名)であり、知識と技能や態度の違い、あるいは、知識の深さ(選択肢は選べるが、自らの行動や言葉でその知識を活かすことができない)の問題等、いろいろと考えさせる結果でありました。

附属病院の臨床研修に関しては、マッチングがわずか4名であり、どうして急にマッチ者数が減少したのかの分析が待たれるところであります。

以上のように、臨床医学教育研修部門は、臨床医学という枠組みから、学部教育、卒後臨床教育を見つめ、改善を図っていきます。

## 2023 年度

### 2023 年

- |           |                                   |
|-----------|-----------------------------------|
| 4 月 3 日   | 研修医オリエンテーション（～12 日）               |
| 4 月 8 日   | 2022 年度福島県臨床研修医合同オリエンテーション（オンライン） |
| 4 月 24 日  | 臨床研修管理委員会・専門医研修管理委員会              |
| 5 月 18 日  | 福島県臨床研修病院ネットワークガイダンス（オンライン）       |
| 5 月 22 日  | 臨床研修管理委員会（拡大）                     |
| 5 月 28 日  | イーレジデント オンライン説明会                  |
| 6 月 7 日   | エムスリーキャリア オンライン説明会                |
| 6 月 18 日  | レジナビ 対面式説明会（東京）                   |
| 6 月 26 日  | 臨床研修管理委員会、研修医意見交換会                |
| 6 月 30 日  | マッチング説明会（福島医大）                    |
| 7 月 5 日   | 専門研修プログラム合同説明会（オンライン）             |
| 7 月 15 日  | レジナビ オンライン説明会                     |
| 7 月 24 日  | 臨床研修管理委員会                         |
| 8 月 2 日   | 地域実習Ⅱ：いわき（～4 日）                   |
| 8 月 2 日   | 地域実習Ⅱ：県中（～4 日）                    |
| 8 月 2 日   | 地域実習Ⅱ：県中（～4 日）                    |
| 8 月 7 日   | 地域実習Ⅱ：県北（～9 日）                    |
| 8 月 8 日   | 地域実習Ⅱ：相双（～10 日）                   |
| 8 月 22 日  | 地域実習Ⅱ：いわき（～24 日）                  |
| 8 月 23 日  | 地域実習Ⅱ：会津・南会津（～25 日）               |
| 8 月 26 日  | 第 54 回福島アドバンスド・コース（オンライン）         |
| 9 月 9 日   | 短期海外研修（～18 日）                     |
| 9 月 25 日  | 臨床研修管理委員会                         |
| 9 月 27 日  | 地域実習Ⅱ：県南（～29 日）                   |
| 9 月 27 日  | 地域実習Ⅱ：いわき（～29 日）                  |
| 9 月 30 日  | 第 15 回診断推論セミナー開催（福島医大）            |
| 10 月 20 日 | 医学部 4 年生との未来を語る会                  |
| 10 月 28 日 | 福島県地域医療症例検討会（寿泉堂総合病院）             |
| 10 月 30 日 | 臨床研修管理委員会、研修医意見交換会                |
| 11 月 3 日  | 福島県主催福島県医師臨床研修指導医養成講習会（～4 日）      |
| 11 月 7 日  | 指導医セミナー（会津医療センター）                 |
| 11 月 16 日 | エムスリーキャリア オンライン説明会                |
| 11 月 19 日 | 第 55 回福島アドバンスド・コース（福島医大）          |
| 11 月 19 日 | イーレジデント オンライン説明会                  |
| 11 月 25 日 | 研修医オータムセミナー                       |

- 11月27日 臨床研修管理委員会
- 12月13日 指導医セミナー（福島赤十字病院）
- 12月14日 指導医セミナー（済生会福島総合病院）
- 12月25日 地域実習Ⅱ：県中

#### 2024年

- 1月6日 福島県立医科大学主催臨床研修指導医講習会（～7日）
- 1月10日 指導医セミナー（星総合病院）
- 1月17日 指導医セミナー（医療生協わたり病院）
- 1月24日 指導医セミナー（総合南東北病院）
- 1月22日 臨床研修管理委員会、研修医意見交換会
- 2月7日 指導医セミナー（大原総合病院）
- 2月8日 指導医セミナー（公立岩瀬病院）
- 2月15日 指導医セミナー（公立藤田総合病院）
- 2月17日 腹部エコーセミナー
- 2月18日 イーレジデント オンライン説明会
- 2月19日 臨床研修管理委員会
- 2月20日 指導医セミナー（太田西ノ内病院）
- 2月21日 指導医セミナー（白河厚生総合病院）
- 2月27日 マイナビレジデント オンライン説明会
- 2月29日 指導医セミナー（竹田総合病院）
- 3月1日 地域医療を考える懇談会（福島医大）
- 3月14日 レジナビ 対面式説明会（東京）
- 3月17日 レジナビ オンライン説明会
- 3月18日 臨床研修管理委員会（拡大）

## 4年生との未来を語る会

事業内容と目的:臨床実習が始まる4年生に対して、スムーズに実習に入ることが出来るように、臨床系教員との交流を図るため実施。

2023年度は、各講座や研修部門の責任者や担当者のほか、若手医師や臨床研修医との交流会の場を設け、本学附属病院の研修内容の特徴や優位性、職場の雰囲気などを伝え、多くの卒業生に本学附属病院の臨床研修医として登録してもらうことを目的に実施した。

開催年月日	場所	参加者	
		学生(学年人数)	教員
2023.10.20	福島医大 4号館・8号館	129名	71名 (研修医6名)



## 研修医説明会

民間企業が主催する臨床研修医募集に関する説明会（レジナビ等）への参加については、2020年度と2021年度は新型コロナウイルスの影響により、オンライン説明会のみでの参加だったが、2022年度からは対面式説明会への参加も再開した。2023年度も対面式とオンラインの両方に参加した。

専門研修プログラムについては、各診療科（専門研修プログラム）が主体となり、医局説明会等を開催し、募集活動をおこなっている。

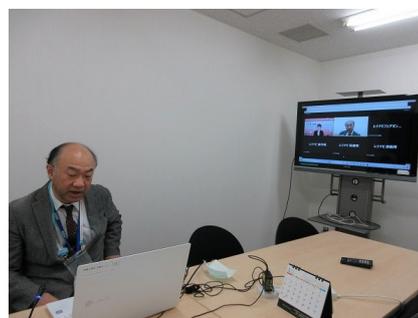
医療人育成・支援センターでは、各専門研修プログラムにおける採用活動と連携し、オンライン合同説明会を開催するなど、広く応募を呼びかけている。

開催年	月	日	説明会名称	形式	事業主体	参加者数
2023	5	28	イーレジデント	オンライン	ネットワーク	48
〃	6	7	エムスリーキャリア	オンライン	医大病院	10
〃	6	18	レジナビ（東京）	対面式	ネットワーク	83
〃	7	5	専門医研修合同説明会	オンライン	医大病院	35
〃	7	15	レジナビ	オンライン	ネットワーク	63
〃	11	16	エムスリーキャリア	オンライン	医大病院	13
〃	11	19	イーレジデント	オンライン	ネットワーク	29
2024	2	18	イーレジデント	オンライン	ネットワーク	32
〃	2	27	マイナビレジデント	オンライン	ネットワーク	81
〃	3	14	レジナビ	オンライン	ネットワーク	49
〃	3	17	レジナビ（東京）	対面式	ネットワーク	120

ネットワーク：福島県臨床研修病院ネットワーク

医大病院：福島県立医科大学附属病院

※事業主体がネットワークの場合、参加者は各病院の合計数を記載している



## 福島県臨床研修病院ネットワークの活動

福島県は医師不足が深刻な状況を踏まえ、2010年11月に「地域医療再生計画」を策定し、各種施策を展開している。その一環として、県は本学に対する補助事業として「福島県臨床研修病院ネットワーク」を2011年度から立ち上げ、当医療人育成・支援センターが事務局として運営している。活動は多岐にわたっている。

### 1. 臨床研修医招聘事業

#### 1) 福島県臨床研修病院ネットワークガイダンス

福島県内の臨床研修病院の合同説明会として、福島県と東京で開催していたが、新型コロナウイルス感染症蔓延化以後の2020年度からはオンラインでの開催としている。

2023年度はオンラインにて一回開催した。

また、当センターのガイダンスとは別に地域医療支援センターによる同様のガイダンスとして、福島地域医療を考える懇談会が開催されているが、こちらは3月に福島県立医科大学にて対面式で開催した。

年月日	主催	形式	参加医学生	参加病院数
2023. 5. 18	医療人育成・支援センター	オンライン	80名	20病院
2024. 3. 1	地域医療支援センター	対面	79名	20病院



#### 2) レジナビフェア等への参加

詳細は、別項の研修医説明会参照。

#### 3) ふくしま“絆”医学生臨床実習支援事業

2016年度より、福島県外の医学生が県内臨床研修病院で学外臨床実習を行う場合、一人あたり5万円の助成を行っている。

年度	助成件数	大学数	病院数
2023	45名	7大学	5病院

## 2. 臨床研修医育成事業

### 1) 臨床研修医合同オリエンテーション

2012年度より、4月の第1週の土日に、県内で臨床研修を開始する全ての研修医を集めた合同オリエンテーションを開催していたが、新型コロナウイルス感染症蔓延化以後の2020年度以降は、感染拡大防止のため、第1週の土曜日午後にはオンラインで開催している。

### 2) 福島アドバンスド・コース (Fukushima Advanced Course by Experts : F A C E)、診断推論セミナーの開催

詳細は、別項福島・良き医師を育むプロジェクト参照。

### 3) A C L S

県内臨床研修医のA C L S受講実績は、以下の通りである。

No.		在籍者数		受講者数		受講率	
		1年次	2年次	1年次	2年次	1年次	2年次
1	福島医大附属病院	10	12	10	12	100.00%	100.00%
2	大原総合病院	8	8	8	7	100.00%	87.50%
3	わたり病院	3	3	0	3	0.00%	100.00%
4	福島赤十字病院	9	8	7	8	77.78%	100.00%
5	済生会福島総合病院	-	1	-	1	-	100.00%
6	公立藤田総合病院	6	3	6	3	100.00%	100.00%
7	太田西ノ内病院	5	4	5	4	100.00%	100.00%
8	星総合病院	8	8	8	8	100.00%	100.00%
9	総合南東北病院	15	14	15	14	100.00%	100.00%
10	寿泉堂総合病院	6	5	6	5	100.00%	100.00%
11	公立岩瀬病院	4	3	4	3	100.00%	100.00%
12	白河厚生総合病院	6	6	5	6	83.33%	100.00%
13	竹田総合病院	12	12	9	12	75.00%	100.00%
14	会津医療センター	5	5	5	5	100.00%	100.00%
15	会津中央病院	5	4	1	4	20.00%	100.00%
16	いわき市医療センター	12	12	0	12	0.00%	100.00%
17	福島労災病院	2	2	0	0	0.00%	0.00%
18	常磐病院	3	2	0	1	0.00%	50.00%
18	公立相馬総合病院	3	2	0	1	0.00%	50.00%
19	南相馬市立総合病院	3	2	1	2	33.33%	100.00%
合計		125	116	90	111	72.00%	95.68%

\*2024年3月時点

#### 4) レジデントスキルアップセミナー（エコーセミナー、地域症例検討会）

2012年度から開催しているFACEや診断推論セミナーは、研修医の交流の場を設けて、自分の研修の進捗を客観的に評価し、研修のモチベーションを高めてもらうことを目的としているが、必ずしも県内臨床研修医が多く集まるわけではない。

また、臨床研修医からは、合同オリエンテーションとは別で、研修医が集まる場を提供して欲しいという要望もあり、本事業を2012年度から実施している。

2023年度は、心エコーセミナーについては開催できなかったものの、腹部エコーセミナーは、2024年2月17日に福島県立医科大学の構内で開催した。当該セミナーには、28名の県内臨床研修医が参加し、参加者からは、「一人一人指導をしていただき、解剖を理解しながら手技を修得できた」「直接時間をかけて教えて頂けて、大変勉強になりました」など、高評価をいただき、充実した研修となった。

また、医療人育成・支援センター主催の福島県地域医療症例検討会は、福島県医師会に協力いただき、2023年10月28日に寿泉堂総合病院で開催し、臨床研修医による素晴らしい症例発表が行われた。多くの方々から様々なご意見をいただき充実した検討会となった。

内 容	形 式	年 月 日	参 加 人 数
心エコーセミナー	未実施		
腹部エコーセミナー	対面式	2024年2月17日	28名
福島県地域症例検討会	対面式	2023年10月28日	発表者9名、聴講者22名



腹部エコーセミナー

福島県地域症例検討会

## 5) 短期海外研修

米国日本人医師会による協力のもと、2014年度から年2回、福島県内での選考活動を行った上で、東北3県（福島県、宮城県、岩手県）から希望者を派遣していた。

2020年度以降は新型コロナウイルス感染拡大により実施していなかったが、2023年度は以下の日程で開催した。なお2024年度以降も開催することが決まっている。

行先	出発	帰国	3県合同参加人数	福島県参加人数
ニューヨーク フィラデルフィア	2023/9/9	2023/9/18	9人	3人



※写真は、2023年度の様子。

### 3. 研修指導強化事業

#### 1) 指導医講習会

詳細は、別項指導医講習会参照。

#### 2) 指導医セミナー

福島医大ブランド戦略の活動の一環として、県内の教育協力病院における教育力アップのために、2019年度から学部教育や研修医教育等に関する話題提供の講演を行っている。2020年度からは、福島県立医科大学に所属する臨床教授・臨床准教授の更新案件（3年間に2回以上の講演聴取が必須）となっている。

2023年度の実績は、以下の通り。

開催年月日	開催場所
2023年11月7日	会津医療センター
2023年12月13日	福島赤十字病院
2023年12月14日	済生会福島総合病院
2024年1月10日	星総合病院
2024年1月17日	医療生協わたり病院
2024年1月24日	総合南東北病院
2024年2月7日	大原総合病院
2024年2月8日	公立岩瀬病院
2024年2月15日	公立藤田総合病院
2024年2月20日	太田西ノ内病院
2024年2月21日	白河厚生総合病院
2024年2月29日	竹田総合病院

#### 4. 広報事業

以下のような事業を行っている。

1) ホームページの更新、臨床研修医メーリングリストの作成

2) 福島県臨床研修病院ガイドブックの作成

3) ネットワーク通信の発行

月に1回、ネットワーク通信として福島県内外の医学生や臨床研修医に送付し、ネットワークの各種事業、県内臨床研修病院の病院見学や各種イベントの広報や紹介を行っている。

4) 臨床研修病院のPRコーナーの設置など

福島県立医科大学11号館第2臨床講義室前に県内臨床研修病院のPRコーナーを設け、パンフレットを置いている。

また、各病院のイベント等の紹介を学内の医療人育成・支援センター掲示板を使い、適時掲示している。



ホームページ



ガイドブック



ネットワーク通信

#### 5. 臨床研修医採用状況

2024年度に福島県内の臨床研修病院に採用された臨床研修医(2023年度のマッチングおよび採用の実績)は119名であった。

福島県臨床研修病院ネットワークの活動が、各病院の努力と相まって、本県の医療状況の改善に寄与することが期待されている。

2024年度採用の臨床研修医に関する実績

福島県 臨床 研修医 採用数	最終採用者数				マッチング		福島医科大学	
	福島医 科大学 卒業	他大学 卒業	県内 出身者	県外 出身者	県内 総数	県内 出身者	前年度 6年生 人数	県内 出身者
119	77	42	55	64	110	52	120	33

6. 参考；福島県立医科大学の学生の県内臨床研修病院認知度調査

(2022年10月 福島医大4年生)

県内研修病院名	よく知っている	名前は 聞いたことがある	知らない
大原総合病院	35	87	0
わたり病院	13	86	23
福島赤十字病院	21	97	4
公立藤田総合病院	9	93	20
太田西ノ内病院	17	85	20
星総合病院	22	96	4
総合南東北病院	16	91	15
寿泉堂総合病院	12	92	18
公立岩瀬病院	8	88	26
白河厚生総合病院	8	88	26
竹田総合病院	14	92	16
会津医療センター	21	94	7
会津中央病院	15	83	24
いわき市医療センター	14	88	20
福島労災病院	9	70	43
常磐病院	7	65	50
公立相馬総合病院	5	80	37
南相馬市立総合病院	6	73	43

## 福島・良き医師を育むプロジェクト

各臨床研修病院で研修している研修医同士が交流しながら勉強する機会が少ないことから、2009年より、福島アドバンスドコース（FACE: Fukushima Advanced Course by Experts）と診断推論セミナーを開催している。交流を通じて、研修医同士が自分の研修内容や実績を客観的に評価し、今後の研修の励みとするとともに、指導医との交流により、県内の研修の質の向上を目的として開催している。当初は、県内の研修医を対象に企画していたが、回を重ねるたびに県外の研修医や県内外の医学部生が集まり、切磋琢磨の場のみならず、福島県の臨床研修の魅力を伝える場にもなっている。

会場は、財団法人太田総合病院の全面的な支援をいただき、磐梯熱海の緑風苑で開催してきたが、これらは温泉付きの勉強会として、全国的にも有名であった。

2020年度以降は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインで開催していたが、2023年度の第55回FACEと第15回診断推論セミナーは2019年度以来の対面式（福島県立医科大学で日帰り開催）で開催した。なお2024年度に一泊二日の対面式セミナーを再開する予定である。

### 1. FACE

#### 【2023年度】

回数	開催年月日	形式	テーマ及び講師
第54回	2023年8月26日	オンライン	『関節炎へのアプローチ』 『Not to be a danger doctor』 NTT東日本関東病院 陶山恭博先生 『浮腫へのアプローチ』 会津医療センター 宗像源之先生
第55回	2023年11月19日	対面式	『フィジカル診断エクセレンスケース』 『フィジカルスキルセッション』 群星沖縄臨床研修センター 徳田安春先生 『心電図どこまで読めるか?』 会津医療センター 宗像源之先生

回数	学生		臨床研修医		医師	合計
	福島医大	その他	県内	県外		
第54回	0	1	33	2	36	72
第55回	0	0	10	2	3	15

## 2. 診断推論セミナー

【2023年度】

回数	開催年月日	メイン講師
第15回	2023年9月30日	『アイスブレイク』 医療人育成・支援センター 大谷晃司先生 『動けない～高齢者のわかりにくい訴えを診断する～』 『「これ身体症状症？」 多種多様な訴えの中年男性』 豊田地域医療センター 野口善令先生 『高齢女性の発熱』 福島県立宮下病院 小野正博先生

回数	学生		臨床研修医		医師	合計
	福島医大	その他	県内	県外		
第15回	1	0	9	1	0	11



第55回FACE



第15回診断推論セミナー

## 指導医講習会

2004年度から実施されている医師臨床研修制度において、研修医を指導する“臨床研修指導医（いわゆる指導医）”は、厚生労働省が定める「医師の臨床研修に係る指導医講習会の開催指針」に則った指導医講習会の受講が義務とされている。医療人育成・支援センターは、県主催の福島県医師臨床研修指導医養成講習会と、福島県立医科大学主催の臨床研修指導医養成講習会の実施を実質的に担っている。2023年度の開催実績は、以下の通り。

### 1. 福島県医師臨床研修指導医養成講習会

2023年度 11月3、4日 会場：福島県立医科大学

受講人数 38名（うち福島県立医科大学附属病院 26名）

ディレクター：國分 守（福島県保健福祉部長）

チーフタスクフォース：福井 次矢（東京医科大学茨城医療センター 病院長）

タスクフォース：向原 茂明（長崎県老岐病院 院長）

羽金 和彦（宇都宮市保健所 所長）

増山 郁（星総合病院 小児科診療部長兼クリニカルコミュニケーションセンター長）

大谷 晃司（福島県立医科大学 医療人育成・支援センター長）

濱口 杉大（福島県立医科大学附属病院 総合内科教授）

木村 隆（福島県立医科大学 外科研修部門教授）

菅藤 賢治（大原総合病院 総合診療科主任部長）

ターニングポイント担当：諸井 陽子（福島県立医科大学医療人育成・支援センター）

事務局：福島県地域医療支援センター（保健福祉部医療人材対策室）



## 2. 臨床研修指導医講習会

2024年1月6、7日 会場：福島県立医科大学

受講人数 42名（うち福島医大病院 25名）

ディレクター：竹石 恭知（福島県立医科大学附属病院長）

バイスディレクター：福井 次矢（東京医科大学茨城医療センター 病院長）

タスクフォース：向原 茂明（長崎県壱岐病院 院長）

羽金 和彦（宇都宮市保健所 所長）

増山 郁（星総合病院 小児科診療部長兼クリニカルシミュレーションセンター長）

菅藤 賢治（大原総合病院 総合診療科 主任部長）

大谷 晃司（福島県立医科大学 医療人育成・支援センター長）

濱口 杉大（福島県立医科大学附属病院 総合内科教授）

木村 隆（福島県立医科大学 外科研修部門教授）

ターニングポイント担当：諸井 陽子（福島県立医科大学医療人育成・支援センター）

事務局：福島県立医科大学 教育研修支援課研修支援係（医療人育成・支援センター）



### 3. 県内研修病院での指導医の割合の現状

	臨床経験 7 年目以上の指導する立場の医師数	指導医講習会受講者数	受講率 (%)	臨床研修病院数
青森県	794	619	77.9	13
岩手県	692	516	76.7	12
宮城県	1,593	1,103	69.2	19
秋田県	819	656	80.0	14
山形県	680	490	72.0	9
<b>福島県</b>	<b>1,071</b>	<b>911</b>	<b>85.0</b>	<b>20</b>
東北 6 県	5,629	4,295	76.3	87

(2023 年 4 月 1 日現在 東北厚生局調べ)

	指導医講習会受講率 (%)			
	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年
青森県	82.5	77.0	73.4	77.9
岩手県	83.3	80.1	80.0	76.7
宮城県	71.0	66.8	70.4	69.2
秋田県	77.4	73.3	85.8	80.0
山形県	74.1	69.9	72.0	72.0
<b>福島県</b>	<b>82.9</b>	<b>80.7</b>	<b>81.6</b>	<b>85.0</b>
東北 6 県	77.7	73.7	76.4	76.3

(東北厚生局調べ)

大学 病院	臨床経験 7 年目以上の指導する立場の医師数	指導医講習会受講者数	受講率 (%)
弘前大	225	184	81.7
岩手医大	181	126	69.6
東北大	401	269	67.0
秋田大	243	151	62.1
山形大	177	137	77.4
<b>福島医大</b>	<b>222</b>	<b>222</b>	<b>100.0</b>
東北 6 大学	1,449	1,089	

(2023 年 4 月 1 日現在 東北厚生局調べ)

	指導医講習会受講率(%)	
	2010年	2023年
<b>福島医大附属病院</b>	<b>71.5</b>	<b>100.0</b>
大原総合病院	42.1	88.8
太田西ノ内病院	57.0	85.0
星総合病院	53.1	73.0
竹田総合病院	47.3	77.9
いわき市医療センター	16.2	77.2
総合南東北病院	34.2	70.9
公立岩瀬病院	57.1	86.3
福島労災病院	13.0	64.2
医療生協わたり病院	68.4	100.0
寿泉堂総合病院	89.3	77.1
白河厚生総合病院	69.2	96.2
公立藤田総合病院	87.5	87.5
会津中央病院	30.0	77.5
会津医療センター附属病院	77.8	85.7
福島赤十字病院	45.7	93.0
公立相馬総合病院	-	91.6
南相馬市立総合病院	-	100.0
ときわ会常磐病院	-	77.7
済生会福島総合病院	-	72.2
福島県平均	53.7	85.0

(東北厚生局調べ)

2023年4月1日における受講率について、本院は大学附属病院として東北6県で唯一の100%となった。また県全体の受講率も東北6県ではトップとなっている。これには、年2回の指導医講習会を開催していることが大きいと考えられる。

県内の研修病院の質の向上のためには、多施設の指導医と交流しながら研修医教育の在り方を考えることができる本講習会はきわめて有意義である。

県内の各病院には引き続き参加を呼びかけながら、福島県全体としての受講率を上げていく。

## 臨床研修医に対する支援・教育

臨床医学教育研修部門の主たる業務の一つが、福島県立医科大学附属病院に所属する臨床研修医に対する支援や教育である。本項では、臨床研修医に対する様々な支援や教育活動について述べる。

### 1. ステップアップセミナー

毎週火曜日 18:00 から 1 時間程度、主として O J T でできない知識や技能の総まとめを目的として、臨床研修医の希望を取りながら実施した。ステップアップセミナーの年間受講率 70% を臨床研修プログラム修了の必須条件としている。2023 年度の開催実績は別紙のとおり。

### 2. ACLS

福島県立医科大学附属病院では、2011 年度より福島県 ACLS 協会の支援の元、臨床研修修了までに ACLS を取得することを目標としている。

2023 年度の福島県立医科大学附属病院臨床研修医の ACLS 受講者率は、下記のとおりである。

	在籍者数 (A)	受講修了者数 (B)	受講率 (%)
1 年次	10	10	100.00%
2 年次	12	12	100.00%

### 3. 臨床研修費用助成

研修医の能力向上促進のため、2011 年度より研修費助成制度を開始した。学会や研修会参加費及び交通費、参考図書やコンピュータの購入経費等を年間 20 万円まで助成している。

2023 年度の実績は下記のとおりである。

	利用額 (円)			利用者率 (%)	総予算の利用額率 (%)
	最低	最高	平均		
2023 年度	34,729	200,000	183,744	19/19=100.0%	349.1/380 万=91.8%

### 4. メンター制度

研修医特定の診療科に属することなく、ローテーションで研修を行っているため、研修期間を通して生じる問題や悩みを相談できるシステムがない。メンター制度は、この欠点を補うためのシステムである。

研修医 1 名に対して、シニアメンターとメンターがそれぞれ 1 名ずつ担当する。シニアメンターは研修開始前に研修医が自由に選択することができる。シニアメンターとメンターについて、研修途中での変更も可能である。メンター制度の一環として、年に 1 回のアンケートを研修医に実施している。アンケート結果は、各シニアメンターやメンターへ報告され、メンタリングへ活用されるほか、研修環境を向上させるための参考資料としても活かされる。

研修医が希望する際にはいつでも相談を受けられるが、メンターとは年 2 回、シニアメンターとは年 1 回の定期的なメンタリングも設定されている。

【2023年度】ステップ・アップ・セミナー

	月日	曜日	内容等	所属	講師
第1回	4月14日	(金)	ふくジェネジム 総合診療アタマを鍛える!	総合診療医センター	Joel Branch先生(八尾徳州会)
第2回	4月25日	(火)	救急症例検討会	救急科	武藤憲哉先生
第3回	5月9日	(火)	実技 包帯 三角巾	基礎看護学部門	黒田るみ先生
第4回	5月16日	(火)	講義 腎臓高血圧内科セミナー	腎臓高血圧内科	風間順一郎先生
第5回	5月23日	(火)	総合内科セミナー	総合内科	濱口杉大先生
第6回	5月30日	(火)	救急症例検討会	救急科	武藤憲哉先生
第7回	6月13日	(火)	総合内科セミナー	総合内科	中川絢明先生
第8回	6月20日	(火)	講義 抗菌薬の使い方	感染制御部	原先生、油井先生
第9回	6月29日	(木)	実技 気管挿管	救急科	塚田泰彦先生
第10回	7月4日	(火)	実技 シーネ巻き	整形外科	大谷晃司先生
第11回	7月10日	(月)	ふくジェネジム 総合診療アタマを鍛える!	総合診療医センター	John Launer先生(ロンドン大学)
第12回	7月18日	(火)	総合内科セミナー	総合内科	濱口杉大先生
第13回	8月1日	(火)	講義 非専門医による運動器疾患診療のコツ	整形外科	大谷晃司先生
第14回	8月24日	(木)	CPC	呼吸器内科・病理病態診断科	
第15回	8月29日	(火)	救急症例検討会	救急科	武藤憲哉先生
第16回	9月5日	(火)	実技 骨折の整復	整形外科	大谷晃司先生
第17回	9月12日	(火)	総合内科セミナー	総合内科	中川絢明先生
第18回	9月19日	(火)	実技 CVポート1	株式会社メディコン	
第19回	9月26日	(火)	救急症例検討会	救急科	武藤憲哉先生
第20回	10月3日	(火)	CPC	血液内科・病理病態診断科	
第21回	10月10日	(火)	総合内科セミナー	総合内科	中川絢明先生
第22回	10月24日	(火)	救急症例検討会	救急科	武藤憲哉先生
第23回	10月26日	(木)	CPC	脳神経内科・病理病態診断科	
第24回	10月31日	(火)	研修医ミニレクチャー	総合内科	中川絢明先生
第25回	11月14日	(火)	研修医ミニレクチャー	総合内科	中川絢明先生
第26回	11月21日	(火)	実技 CVポート2	株式会社メディコン	
第27回	11月25日	(土)	ACP、臓器移植(オータムセミナー)	白河総合診療アカデミー、福島県臓器移植推進財団	宮下淳先生、舟山久美先生
第28回	12月5日	(火)	実技 縫合のハンズオンセミナー	整形外科/株式会社ジョンソンエンドジョンソン	新田夢鷹先生
第29回	12月12日	(火)	総合内科セミナー	総合内科	中川絢明先生
第30回	12月15日	(金)	ふくジェネジム 総合診療アタマを鍛える!	総合診療医センター	Joel Branch先生(八尾徳州会)
第31回	12月26日	(火)	救急症例検討会	救急科	武藤憲哉先生
第32回	1月9日	(火)	実技 透折とAライン	MEセンター	出羽仁技師長
第33回	1月16日	(火)	研修医ミニレクチャー	総合内科	濱口杉大先生
第34回	1月25日	(木)	CPC	救急科・病理病態診断科	
第35回	1月30日	(火)	救急症例検討会	救急科	武藤憲哉先生
第36回	2月6日	(火)	研修医ミニレクチャー	総合内科	濱口杉大先生
第37回	2月13日	(火)	総合内科セミナー	総合内科	中川絢明先生
第38回	2月20日	(火)	実技 胸腔ドレーン	地域救急支援医療・呼吸器外科	上野智史先生、山口光先生
第39回	3月5日	(火)	実技 OSCE	外科・放射線科	木村隆先生、末永博紀先生、大谷晃司先生
第40回	3月12日	(火)	研修医ミニレクチャー	総合内科	中川絢明先生



## 地域実習Ⅱ

医療人育成・支援センターでは、「福島に残ってもらうには、福島を好きになってもらわなければならない。好きになってもらうためには、まず福島を知ってもらわないといけない」ということをモットーに、学生と地域を結びつける活動をしている。

その中で、県の保健福祉事務所、地域医療支援センター、あるいは地方自治体の協力を得て、8月から9月にかけて2泊3日の日程で医学部3年生を地域に連れ出す実習（必修）を2017年度から行ってきた。

新型コロナウイルス感染症の影響のため、2020年度と2021年度は地域に出向いての実習はできなかったが、2022年度は日帰りで実施した。

2023年度は、主に夏休みを利用して2泊3日で各地域に出向いての実習を行った。なお12月には日帰りで実施しているが、これは夏の実習に参加できなかった学生のために開催されたものである。

実施に当たっては、オリエンテーションを2回、発表会準備と発表会を行い、ただ地域に行くだけでなく、振り返る時間を作るように工夫をしている。

### 2023年度 地域実習Ⅱ 実習内容

#### 日程と訪問場所

日程	方部	参加人数	引率
8月2日（水）～8月4日（金）	いわき	12	中村助教
	県中	13	青木助教 安田助手
	県中	5	大谷教授
8月7日（月）～8月9日（水）	県北	9	安井助教
8月8日（火）～8月10日（木）	相双	11	大谷教授
	県南	11	赤間助手
8月22日（火）～8月24日（木）	いわき	15	大谷教授
8月23日（水）～8月25日（金）	会津、南会津	13	菅家講師
9月27日（水）～9月29日（金）	県南	20	大谷教授
	いわき	15	青木助教
12月25日（月）	県中	4	安田助手

### 3) 看護学教育研修部門

---



## ご挨拶

看護学教育研修部門長 黒田るみ

福島県内の看護職養成施設で看護職教育に携わっている皆様、臨床現場あるいは地域でご活躍中の看護職の皆様、また、中学校および高等学校で進路指導をご担当の先生方、看護学生の実習や研究等にご協力くださっている県民の皆様方、日頃より看護学分野の人材育成にご理解ご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

現在、看護学教育は、国家資格を取得するまでの看護学基礎教育、資格取得後の卒後教育のいずれについても、国レベルの枠組みの検討が続いています。厚生労働省による保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正が示され、2022年度から全ての養成所で改正カリキュラムによる教育が始められました。学習内容は計5単位増加となり、科学的・論理的思考、人体の機能や疾病・治療に関する知識、地域・在宅看護学に関する教育が強化されています。また、2024年には、文部科学省による看護学の学士課程教育を対象とした「看護学教育・モデル・コア・カリキュラム」の改訂が予定されており、「医学教育・モデル・コア・カリキュラム」と同様の10の資質・能力に、「QS:ケアの質と安全の管理」を加えた11の資質・能力の修得が、現段階の案として提示されています。

卒後教育に関しては、日本看護協会が、2023年から「継続教育」に変えて「生涯学習」という概念に基づき、全ての研修や教育支援のあり方を再構築しました。看護職者は、今後、自身の将来像を見据えて必要な研修を選択し、自らの責任において専門家としての学習を継続することが求められるようになりました。さらに、2025年度から、高等学校で「情報Ⅰ」を必修科目として学んだ世代が看護学生として養成施設に入学してきます。

このような世の中の流れを受け、本センターの目指す「医療人としての成長をシームレスに支援する」ためには、本部門も教育研修のあり方を検討し続ける必要があります。2023年度は、コロナ禍により構築した広報活動のネットワークやオンライン研修の開催に関するノウハウを活かして研修会を企画し、本学附属病院の認定看護師による実践知を、多くの参加者にお届けすることができました。また、看護学部の教員による高等学校への出前講座や、看護学部の学生を対象とした県内の医療・保健福祉施設の職員による就職ガイダンスの実施など、組織や団体をつなぐ機会の提供を行いました。これらの取り組みにより、看護実践者としての成長を高校生から看護職の資格取得後まで支援しています。今後は、これらに加え、教育者・管理者としての看護職の成長支援についても、他の組織や団体と協力しながら検討していくことが課題であろうと考えています。

現在のような変化の激しい時代にあって判断に迷う時に大切なことは、本来どうあるべきかという思考を失わないことでもあります。看護職は、いつの時代も支援を必要とする人々の立場に立ち、その人の24時間の生活を支えるために自らのもてる力を提供することにより発展してきました。これからもその使命を見失うことなく、世の中の変化に適応しつつ、人間のもつ温かさ・優しさを提供できる専門職として発展し続けられるよう、支援を継続します。

今後とも、ご理解ご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2023 年度

2023 年

- |           |                 |
|-----------|-----------------|
| 6 月 14 日  | 出前講座 (須賀川桐陽高校)  |
| 6 月 23 日  | 出前講座 (福島西高校)    |
| 7 月 4 日   | 出前講座 (磐城桜が丘高校)  |
| 7 月 21 日  | 出前講座 (田村高校)     |
| 7 月 28 日  | 出前講座 (安積黎明高校)   |
| 7 月 31 日  | 学校見学 (安積高校)     |
| 8 月 3 日   | 学校見学 (日本大学東北高校) |
| 9 月 13 日  | 出前講座 (原町高校)     |
| 9 月 15 日  | 学校見学 (会津学鳳中学校)  |
| 9 月 27 日  | 第 1 回オンライン研修会   |
| 10 月 10 日 | 出前講座 (会津高校)     |
| 10 月 18 日 | 出前講座 (福島東高校)    |
| 10 月 25 日 | 出前講座 (橘高校)      |
| 10 月 27 日 | 出前講座 (郡山東高校)    |
| 10 月 31 日 | 出前講座 (喜多方高校)    |

2024 年

- |          |               |
|----------|---------------|
| 1 月 29 日 | 就職ガイダンス       |
| 2 月 29 日 | 第 2 回オンライン研修会 |

## 県内高校への出前講座および大学訪問

看護学教育研修部門では、看護学部広報委員会の協力のもとに、県内高校への出前講座および大学訪問を実施している。

2023年度は、福島県各方部の高校からの依頼に応じて、11校に出前講座を、また3校の大学訪問に対応した。2022年度と比較し、出前講座が増加傾向にある。

出前講座や大学訪問で模擬講義を担当した教員は、人間の身体機能や生活習慣、ライフサイクルや心の問題など、各々が専門とする分野の最先端の内容を盛り込みながら講義を行いました。看護学部に入学してから学習する内容を、高校生の皆さんにも具体的にイメージしていただけたものと思われる。

また、大学訪問では、模擬講義に加え、施設内見学を実施している。講義室、実際の医療現場を再現した実習室内の様子、医療器具やシミュレータなどの見学を通して、実際の学習環境を体験していただく機会になればと考えている。

### 出前講座

日 程	場 所	講 師	所 属
6月14日	須賀川桐陽高校	田村達弥助教	小児・精神看護学
6月23日	福島西高校	山口咲奈枝准教授	母性看護学・助産学
7月4日	磐城桜が丘高校	関亦明子教授	生命科学
7月21日	田村高校	山口咲奈枝准教授	母性看護学・助産学
7月28日	安積黎明高校	佐藤富美子教授	成人・老年看護学
9月13日	原町高校	川島理恵講師	基礎看護学
10月10日	会津高校	加藤郁子講師	生命科学（CNS）
10月18日	福島東高校	佐藤富美子教授	成人・老年看護学
10月25日	橘高校	横山郁美助教	成人・老年看護学
10月27日	郡山東高校	関亦明子教授	生命科学
10月31日	喜多方高校	黒田るみ教授	基礎看護学

### 大学訪問

日 程	訪 問 校	模 擬 講 義 講 師	所 属
7月31日	安積高校	佐藤利憲講師	小児・精神看護学
8月3日	日本大学東北高校	坂本祐子教授	成人・老年看護学
9月15日	会津学鳳中学校	高瀬佳苗教授	地域・公衆衛生看護学

## 看護学部生を対象とした就職ガイダンス

看護学教育研修部門では、看護学部生を対象とした就職ガイダンスを実施している。

2023年度は、本学附属病院・会津医療センター附属病院、県内の主要な医療機関11施設等にご協力いただいた。約半年にわたる臨地実習を終えたばかりの3年生が、施設の方々と直接話をしながら、自身の将来を真剣に検討した。

また、本就職ガイダンスは、看護学部3年生全員にとって、自身に適した就職先を探すことに加え、県内の医療機関や保健行政の現状を現場の方との会話を通じて直接知ることのできる貴重な機会としても位置付けられている。

2023年度

開催日	内容	対象者
2024年1月29日(月)	<ul style="list-style-type: none"><li>・民間病院等11施設</li><li>・福島県立医科大学附属病院</li><li>・会津医療センター附属病院</li><li>・保健師(県庁)</li></ul>	本学看護学部 3年生



就職ガイダンスの様子

## 看護職を対象とした教育研修

2023年度は、看護職を対象とした研修会を2回開催した。

第1回は、「防ごう、急変。看護師にできること」をテーマに、本学附属病院集中治療部の救急看護認定看護師、五十嵐佑也氏を講師に招聘した。

新型コロナウイルス感染症による影響が落ち着いてきた現在においても、依然として看護職の離職率は高止まりの状態にあると言われている。離職理由には、人間関係の不和、仕事の忙しさ等が挙げられており、その要因の一つに、患者の急変時対応がある。患者の予期せぬ突然の状態変化に対応して生命を救うには、多くの知識や迅速な判断力、状況に応じたマネジメント力等、様々な能力が求められ、経験を重ねた看護職にとっても大きなストレスのかかる状況の一つと言える。このような状況にいかに対応していくかを学ぶことは、看護師の経験年数や部署の特殊性を超えて、多くの看護職が求める研修内容と考えた。

そこで、第1回の研修では、担当している患者の様子がいつもと違う、何か変だと感じた時に看護師として取るべき対応について、ポイントを押さえて説明いただいた。

第2回は、「慢性疾患患者の意志決定支援～患者の価値観を大切にできる環境を看護師がつくる～」をテーマに、本学附属病院の呼吸器疾患看護認定看護師、村上桃恵氏を講師に招聘した。

2025年問題と言われる日本の超高齢化により、慢性疾患を抱える患者も増加している。このことは、医療機関においても保健福祉施設においても、また地域においても同様であり、慢性疾患を抱え、生活する人々への支援の方法は、多くの看護職に求められる重要なテーマであると言える。

そこで、研修会では、講師が直接関わった事例を通して、慢性疾患患者に特有の意思決定支援のポイントを具体的に説明いただいた。

2023年度の計2回の研修会も、地域医療を担う多くの看護職の皆様にご参加いただけることを願って、2022年度と同様に、平日の夕方、勤務終了後の時間帯に、オンラインによる開催とした。研修会終了後のアンケートを拝見する限り、概ね良い評価であったと受け止めている。しかし、研修会を開催している真の目的は、この研修会による学びをそれぞれの職場に持ち帰り、看護実践に役立てていただくことにあると考え、アンケートの結果だけを見て終わりにすることはできない。

看護学教育研修部門では、これからも直接看護実践を担っている皆様方にとってより良い実践につながる研修の機会を提供できるよう努力していく。今後も引き続き、皆様の学びの場、気づきの場として活用いただけるよう、よろしく願い申し上げます。

## 第1回研修会

- テーマ 防ごう急変 看護師にできること
- 日時 2023年9月27日(水) 17:30~18:30
- 対象 福島県立医科大学附属病院の看護職及び関心のある全教職員・大学院生・学生会津医療センターの医療職等
- 形式 オンライン開催
- 講師 五十嵐佑也氏 (福島県立医科大学附属病院 集中治療部 救急看護認定看護師)
- 結果 アクセス数 30 (後日オンデマンド視聴 6) のべ 36

## 第2回研修会

- テーマ 慢性疾患患者の意志決定支援  
～患者の価値観を大切にする環境を看護師がつくる～
- 日時 2024年2月29日(木) 17:30~18:30
- 対象 福島県立医科大学附属病院の看護職及び関心のある全教職員・大学院生・学生会津医療センターの医療職、福島県内病院の医療職など
- 形式 オンライン開催
- 講師 村上桃恵氏 (福島県立医科大学附属病院 呼吸器疾患看護認定看護師)
- 結果 当日アクセス数 45 (後日オンデマンド視聴 47) のべ 92

## ■研修会の様子

第1回研修会



第2回研修会



#### 4) 災害医療総合学習センター

---



## ご挨拶

災害医療総合学習センター長 長谷川有史

2011年3月11日に発生した東日本大震災と福島第一原子力発電所事故（以後 福島事故）後に、福島県内の医療体制は一時的に危機的な状況に陥りました。福島事故の反省を受けて、今後も発生が懸念される大災害を想定した準備を行う事、災害医療・放射線被ばく医療に従事できる医療者の養成を行う事、が急務と考えられました。そこで福島県立医科大学では、2012年1月に文部科学省3次補正の国庫補助事業として災害医療総合学習センターを設立し、10年プロジェクトとして活動を開始いたしました。その後は2017～2020年度まで放射線健康リスク科学人材育成プログラムと連携を図り長崎大学・広島大学のご指導を賜りながら運営を行って参りました。

原子力災害医療における教育・啓発プログラムについては、2016年度から原子力規制委員会により原子力災害時の医療体制整備が進められ、中核人材育成研修などの全国的な統一された教育研修制度が準備されて参りました。本学でも原子力災害医療・総合支援センターを中心に標準的な教育・研修が運営されております。一方で、福島事故から得られた知識・経験・教訓のエッセンスを伝える機会が徐々に減っているのも現実です。

本センター教育プログラムの特徴は、福島事故から実際に得られた経験と教訓をそのプログラムに強く反映している点にあります。加えて、災害の最前線で、災害医療・放射線被ばく医療の実践に対応されている医療関係者やエキスパートの皆様、災害医療に従事することを目指している社会人の皆様並びに学生の方々に、福島事故の経験と反省に基づく総合的な学習を提供することを目標としております。

折しも原子力施設が戦略上の課題として新たに認識される不安定な社会情勢の折り、全国各地の多くの皆様から当センターの活動にご賛同を頂いております。特に財政面では厳しい環境での運営を余儀なくされておりますが、私どもの取り組みが震災復興の一助となり、学部学生、大学院生、医療関係者をはじめセミナーを受講された皆様が、原子力災害医療の急性期または復興期の担い手となりますことを、ひいては日常生活や業務にお役立ちできます事を、スタッフ一同、心から願っております。

## 災害医療総合学習センター事業概要

災害医療総合学習センターは、震災及び原子力災害により被害を受けた福島県内医療体制の再生や放射線の影響等に係る教育、研修体制の充実、人材確保を目的に、文部科学省の2011年度「復興教育支援事業」大学等における地域復興のためのセンター的機能の整備（2011年度第3次補正予算）の採択を受け、福島医大医療人育成・支援センター内に10年プロジェクトとして設置され、2012年4月1日付で医師1名、看護師1名、事務職員3名の職員を配置し、2012年5月17日より本格的に活動開始した。医学部の各講座との協力のもと、特に放射線健康管理学講座のバックアップで、学生教育、医療者教育、地域支援の分野を軸として以下に述べる教育事業を展開してきた。2020年度以降順次担当者が変更された。現在は放射線災害医療学講座の長谷川教授、放射線健康管理学講座の坪倉教授らが主に業務を担当し、教育研修支援課並びに健康ロスクコミュニケーション学講座、放射線災害医療学講座の支援を得て運営されている。

### 【学生向けの教育・啓発活動】

- (1) 医学部学生教育（5年生対象、臨床実習4日間プログラムの参画）
- (2) 医学部学生教育（3年生対象、講義）
- (3) 他大学（国内外）からの学生を対象とする教育セミナー
- (4) e-ラーニング開発と供用（医学生、看護学生、附属病院看護師、各種セミナー参加者）
- (5) 災害・被ばく医療科学共同専攻修士大学院運営への参画

上記の如く、学内外の多様な背景を持つ学生を対象に災害医学に関する教育・啓発活動を行っている。このうち、福島医大の医学生（5年次）対象の災害医療関連教育プログラムにおいては2012年度より放射線災害医療センターが担当するBSLに共同参画している。以下に内容を紹介する。

■ BSL 1日目	■ BSL 2日目	■ BSL 3日目	■ BSL 救急
<ul style="list-style-type: none"><li>福島事故の概略および健康課題</li><li>地域保健活動・医療コミュニケーション</li><li>環境放射線測定</li><li>内部被ばく検査実習</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>リスクコミュニケーション</li><li>被災者のメンタルヘルスケア</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>生物学的線量評価</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>放射性物質汚染を伴う外傷患者への初期診療</li></ul>

上記は以下の4日間から構成される。「原子力災害医療、放射線と健康BSL（3日間）」では放射線に関する基礎的知識・技術・態度を広く医療・福祉・保健並びに社会・政策の視点から考察する。「救急医学としての放射線災害医療BSL（1日間）」では汚染傷病者に対する救急医学の知識・技術・態度を学ぶ。このうち「救急医学としての放射線災害医療BSL」は救急医療学講座のご協力により救急医学の臨床実習の枠の中で実施させて頂いている。具体的な内容を下記に示す。

(1) 臨床医学を通じた福島第一原発事故に関連した概要と外部被ばく・内部被ばく評価実習 (BSL 第1日目)

- ①オリエンテーション 福島事故の概略および健康課題
- ②地域の保健活動/コミュニケーションと医療
- ③環境放射線測定評価実習
- ④内部被ばく検査実習



(2) 放射線と健康に関する臨床医学とマスコミュニケーション対応の実習 (BSL 第2日目)

- ⑤リスクコミュニケーション
- ⑥被災者のメンタルヘルスケア
- ⑦マスコミュニケーション対応



(3) 生物学的線量評価実習 (BSL 3日目)

- ⑧生物学的線量評価実習



(4) 緊急被ばく医療 (救急医療の一部で実施)

放射性物質汚染を伴う外傷患者への初期診療実習

【医療従事者への教育・啓発活動】

学内外の医師・看護師・行政職員等の医療従事者を対象とする災害医療セミナーを行っている。医師・看護師・放射線技師等の医療者に対し、2012年の当センター設置以降開講してきた「福島災害医療セミナー」を目的別・段階別に「被ばく医療コース」、「上級コース」、「県内医療従事者コース」の3コースとして災害・被ばく医療そして原発事故後の福島の現実を段階的に学べるように実施してきた。2023年度から新たに「東京電力福島第一原発視察コース」を新設した。2020年度以降はコロナウイルス感染症の世界的流行をうけてオンラインコースを開催し、多様な社会的背景を持つ参加者の集中力や疲労度を加味しつつ双方向性を担保する参加しやすいセミナーづくりを目指した。尚、本セミナーは、災害医療総合学習センターが主催し、放射線災害医療学講座、健康リスクコミュニケーション学講座の共催で運営されており、当センター以外にも多くの所属の大学職員の協力の元に維持・運営されている。

## 1. セミナー実施状況

### (1) 被ばく医療初級コース 計 32 回

第 1～3 回	「医療人育成・支援センター年報 2010-2013 年度」版参照
第 4～7 回 第 9～11 回 第 13～15 回	「医療人育成・支援センター年報 2014-2015 年度」版参照
第 17～23 回 第 25～28 回	「医療人育成・支援センター年報 2016-2017 年度」版参照
第 30～32 回 第 34～35 回	「医療人育成・支援センター年報 2018-2019 年度」版参照
2020	2020 年 10 月 10 日 (土)
2021 オンラインコース 1	2021 年 6 月 11 日 (金) ～12 日 (土)
2021 オンラインコース 2	2021 年 10 月 1 日 (金) ～2 日 (土)
2022 オンラインコース 1	2022 年 6 月 3 日 (金) ～4 日 (土)
2022 オンラインコース 2	2022 年 10 月 14 日 (金) ～15 日 (土)
2023 オンラインコース 1	2023 年 6 月 30 日 (金) ～7 月 1 日 (土)
2023 オンラインコース 2	2023 年 11 月 17 日 (金) ～18 日 (土)

### (2) 上級コース (※「被ばく医療コース」受講修了者対象) 計 7 回

第 8.12.16 回	「医療人育成・支援センター年報 2014-2015 年度」版参照
第 24.29 回	「医療人育成・支援センター年報 2016-2017 年度」版参照
第 33.36 回	「医療人育成・支援センター年報 2018-2019 年度」版参照

### (3) 県内医療従事者コース 計 6 回

第 1～3 回	「医療人育成・支援センター年報 2014-2015 年度」版参照
第 4 回	「医療人育成・支援センター年報 2016-2017 年度」版参照
第 5～6 回	「医療人育成・支援センター年報 2018-2019 年度」版参照

### (4) 東京電力福島第一原発視察コース 計 1 回

2023 年度	2023 年 6 月 26 日 (月)
---------	---------------------

## 2. 受講者数および講師、協力者数

(1) 被ばく医療コース 計 42 回

	受講者数					講師、協力者数(延べ)		
	医師※1	看護職	診療放射線技師	その他 ※2	合計	学内	学外	合計
第 1～3 回	13	8	6	3	30	14	21	35
第 4～7 回	17	14	11	4	46	36	22	58
第 9～11 回	20	20	15	5	60	30	7	37
第 13～15 回	14	27	20	10	71	26	6	32
第 17～23 回	27	63	30	24	144	41	7	48
第 25～28 回	26	36	22	15	99	30	2	32
第 30～32 回	21	27	26	14	88	21	5	26
第 34～35 回	13	23	26	16	78	22	4	26
2020	14	21	14	22	71	7	1	8
2021-1	2	7	0	9	18	8	1	9
2021-2	14	25	14	18	71	8	1	9
2022-1	9	30	18	26	83	8	1	9
2022-2	10	14	13	14	51	8	1	9
2023-1	9	32	20	27	88	8	1	9
2023-2	6	19	9	11	45	8	1	9
合計	215	366	244	218	1043	275	81	356

※1 研修医含む

※2 臨床心理士、臨床検査技師、作業療法士、薬剤師、救急救命士、消防士、大学教員、管理栄養士、事務職、大学院生、大学生、高校生

(2) 上級コース

	受講者数					講師、協力者数(延べ)		
	医師※1	看護職	診療放射線技師	その他 ※2	合計	学内	学外	合計
第 8. 12. 16 回	23	23	17	3	66	20	27	47
第 24. 29 回	15	22	16	14	67	13	11	24
第 33 回	8	11	6	10	35	8	8	16
第 36 回	10	11	14	4	39	5	9	14
合計	56	67	53	31	207	92	55	147

※1 研修医含む

※2 臨床心理士、臨床検査技師、薬剤師、救急救命士、消防士、大学教員、管理栄養士、事務職

(3) 県内医療従事者コース

	受講者数					講師
	医師	看護職	診療放射線技師	その他※3	合計	学内
第 1～3 回	9	22	3	16	50	15
第 4 回	2	8	0	8	19	4
第 5 回	5	4	1	13	23	8
第 6 回	1	2	2	3	8	5
合計	17	36	6	40	99	32

※3 臨床検査技師、薬剤師、理学療法士、鍼灸師、救急救命士、消防士、社会福祉士、医療ソーシャルワーカー、事務職

(4) 東京電力福島第一原発視察コース 計 1 回

	受講者数					講師
	医師	看護職	診療放射線技師	その他※3	合計	学内事務局
第 1 回	3	5	1	6	15	6
合計	3	5	1	6	15	6

受講者からは各々の講義・実習および全体へ評価と感想・意見をいただき、次回セミナーの質向上に生かしている。手弁当で講師を引き受けていただいている講師並びに共催事務局の皆様に御礼申し上げます。昨年度にいただいた感想・意見の中から抜粋して紹介する(一部報告者が編集)。

- 医師 (福島県)

当時の立場や置かれた状況が異なる先生方が、さまざまな視点から語られた講義はとても勉強になった。グループワークでは、県内県外、職種も様々な方のご意見で、自分とは異なる考えを聞くことができようになった。

- 医師 (青森県)

グループ分けの discussion は時間が短かった。各グループに主催者側からの回し者あるいは事前に主催者から依頼しておいたリーダーがいたほうがスムーズに話し合えるのではないのでしょうか？

- 保健師 (福島県)

意見交換の時間を設けていただき、他施設、他職種の方とお話できとても有意義に感じました。ただ、時間が短いことや話す内容が決まっていないこと、メンバーが毎回変わるにより自己紹介のみで終了したり、だれも発言しないままになってしまうことがありました。グループが固定され、話す内容もある程度決まっていればより活発で有意義な時間となるのかなと感じました。コミュニケーションの訓練であるとは思いますが、ご検討いただければ幸いです。

- 看護師 (京都府)

原子力災害の分野は、当院でも研修等を進めてこなかったもので、今回の受講を参考に、研修を実施したいと思った。

- 看護師 (静岡県)

Zoom で手軽に参加出来ることはとてもありがたい。このような情報が満載なセミナーなのに無料。たくさんの方々にすすめて福島のことももっと知っていただきたい。そんな熱量をとても感じた。お忙しいなか、準備等を本当にありがとうございました。

- 助産師 (福島県)

クライシスコミュニケーション、災害時は必要なスキルだと思います。組織の長となる方に学んでいただきたいです。有意義な時間でした。ありがとうございます。有料セミナーでも参加したいと思います。是非、福島のあの時・放射線の知識の発信を続けていただけると嬉しいです。

- 診療放射線技師 (鹿児島県)

セミナーを通じて、原発事故時、医療者・被災者がどのような問題を抱え、それをどのよう

にして解決したか、取組等の事例を交えわかりやすく講義していただき、有用であった。

- 診療放射線技師（福井県）

Web 上ですが実際に会話し生の意見を聞くことができたことがよかったです。当時被災された方の病院の状況や経過など実際のお話はかなり心を動かされました。

- 歯科医師（北海道）

本セミナーを受けて、災害医療の現場の実情について知識や知見を得られました。この先、災害に面した時、支援する立場としてだけでなく自身が災害医療の近い場所にいることがあるかもしれません。その時は本セミナーで学んだことを思い出し、その時自分にできることを考える姿勢を持ちたいと思いました。

- 精神保健福祉士（京都府）

災害医療と一口に言っても様々な視点があり、またそのなかでも人と人との関係性やコミュニケーションが前提として大切なように思えた。支援する側される側の間にも安心や信頼がなくてはいけないと思うし、支援する側どうしの協力体制として情報共有や相談・連携もなされていることが必要だと感じる。言葉では簡単にあらわせるものの、実際の現場では時間も余裕もない状況であり、予測困難な事態が発生したときにそういった技術が個人でも発揮出来るように、患者さんや医療者どうしとの関係性を見直したり構築したり日々の業務のなかで培い研いていきたいと再確認した。

- 救急救命士（埼玉県）

2 日目の意見交換は、もう少し時間をとって欲しいと感じました。今後も災害医療に必要なセミナーです。受講後のホローアップセミナーもあると良いかなと考えます。今回受講しただけで終わるのはもったいないと感じました。ありがとうございました。

- 事務職（福島県）

原子力災害、自然災害、人為的災害、どんな災害であっても、人の感情の幅と深さに与える影響は深刻で重みがあり、それを少しでも受け止めて、自分がとりうる行動に繋げていくという思いが、再認識できた。モヤモヤとしていた部分が、クリアになってきた感覚です。

以上

## 5) 保健科学教育研修部門

---



## ご挨拶

保健科学教育研修部門長 久保 均

2021年に入学した保健科学部の1期生は最終学年の4年生となり、彼らの卒業をもって保健科学部は完成を迎えます。全ての学科での臨床実習の実施に加え、進路支援としての就職活動への支援や国家試験受験対策などカリキュラムにはないが重要な業務が目白押しで、全てを新たに構築する必要があるところで各学科総力を挙げて取り組んでおります。また、大学院の設置準備も進んでおり、本学における進学の手機を確保すべく努力をしているところです。保健科学部の理念や目標、そしてポリシーに基づいて「いのち、健康、および生活を守る専門医療技術者として、高い倫理観と知識・技術、コミュニケーション能力を有する人材」、「生涯にわたって学習・科学する意欲を持ち続け、人として、専門医療技術者として成長することができる人材」、そして「福島県の地域医療や災害医療を理解し、それらへの取り組みを能動的に行える人材」を養成できるよう、福島駅前キャンパスの全教職員が力を合わせて前進しています。

医療人育成・支援センター保健科学部教育研修部門としては、4学科がそれぞれ実施する臨床実習等の実施状況などを見守ると共に、他部門等との情報共有を密にして確実な教育の実施に寄与してまいります。引き続きのご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2023 年度

2023 年

- 5 月 24 日 出前講座 (安積黎明高校)
- 6 月 14 日 出前講座 (福島西高校)
- 6 月 15 日 出前講座 (須賀川創英館高校)
- 6 月 23 日 出前講座 (須賀川桐陽高校)
- 7 月 4 日 出前講座 (磐城桜が丘高校)
- 7 月 6 日 出前講座 (福島大学附属中学校)
- 7 月 14 日 出前講座 (いわき湯本高校)
- 8 月 7 日 学校見学 (日大東北高校)
- 8 月 30 日 学校見学 (成蹊中学校)
- 9 月 14 日 学校見学 (聖光学院高校)
- 10 月 10 日 出前講座 (会津高校)
- 10 月 18 日 出前講座 (福島東高校)
- 10 月 25 日 出前講座 (橘高校)
- 10 月 27 日 出前講座 (郡山東高校)
- 11 月 2 日 出前講座 (会津学鳳高校)
- 11 月 20 日 出前講座 (福島大学附属中学校)
- 12 月 1 日 出前講座 (いわき湯本高校)
- 12 月 7 日 出前講座 (須賀川創英館高校)
- 12 月 12 日 出前講座 (福島成蹊高校)

2024 年

- 2 月 1 日 コース制導入校情報交換会
- 3 月 5 日 オンライン研修会

## 出前講義

2023年度は以下のように19回の出前講義を行った。コロナ禍明けでまだまだ以前の状態に戻ったという感じではないが、保健科学部で養成している医療技術者について、そして4職種それぞれについての詳細を伝えて、参加者に興味を持ってもらうように講義を行った。今後も活動を継続し、保健科学部についての知名度を高め、医療技術者を目指す高校生が増えることに期待する。

### 【2023年度 出前講義訪問先】

日 程	場 所	講 師 役	所 属
5月24日	安積黎明高校 ※	大葉講師	診療放射線科学科
6月14日	福島西高校	中野渡講師	理学療法学科
6月15日	須賀川創英館高校 ※	遠藤講師	理学療法学科
6月23日	須賀川桐陽高校	石川講師	作業療法学科
7月4日	磐城桜が丘高校	楠本准教授	理学療法学科
7月6日	福島大学附属中学校	五月女准教授	診療放射線科学科
7月14日	いわき湯本高校 ※	鈴木准教授	臨床検査学科
10月5日	原町高校 ※	遠藤講師	臨床検査学科
10月5日	福島南高校	星助教	理学療法学科
10月10日	会津高校	高橋助教	理学療法学科
10月18日	福島東高校	阿部准教授	理学療法学科
10月25日	安積黎明高校 ※	横塚准教授	理学療法学科
10月25日	橘高校 ※	佐藤助教	理学療法学科
10月27日	郡山東高校	中野渡講師	理学療法学科
11月2日	会津学鳳高校	田代助教	診療放射線科学科
11月20日	福島大学附属中学校	山品講師	診療放射線科学科
12月1日	いわき湯本高校 ※	三橋助教	作業療法学科
12月7日	須賀川創英館高校 ※	広藤講師	診療放射線科学科
12月12日	福島成蹊高校	佐藤准教授	診療放射線科学科

※は保健・医療コース導入校

## 学校見学

2023年度は、以下の3校の受入を行う事ができた。今後も、要望のあった施設からの受入を積極的に行いたい。

### 2023年度 学校見学

日 程	見 学 校	模 擬 講 義 担 当
8月7日	日大東北高校	理学：岡崎助教 作業：浅尾講師 放射：大葉講師 検査：鈴木准教授
8月30日	成蹊中学校	理学：中野渡講師 作業：小笠原助教 放射：長谷川教授 検査：義久教授、平田助教、堀越助教
9月14日	聖光学院高校	理学：柴教授 作業：川崎講師 放射：佐藤准教授 検査：高橋講師、飯島講師



臨床検査学科 見学の様子



作業療法学科 見学の様子



診療放射線学科 見学の様子



理学療法学科 見学の様子

## 県立高等学校普通科における特色あるコース制導入校 (医学コース、保健・医療コース) 情報交換会の開催

福島県教育委員会では、県立高等学校改革前期実施計画に基づき医師や看護師をはじめとした医療従事者や教員などを志す生徒の職業観や基礎的な素養を養い、目的意識を持って、将来本県で活躍できる人材を育成するという目的で、高等学校普通科の特色化の一環としてコース制（教育プログラム）を導入している。このコースには「医学」、「保健・医療」、「教育」、「福祉」があり、本学は「医学」および「保健・医療」コースと密接に関連している。

そこで、各コースを導入している高等学校の担当者と情報交換を行うことによりこの取り組みをさらに進歩させることを目的として福島県教育委員会高校教育課が企画して本情報交換会が2月1日に実施された。

本学からは医学部、看護学部、保健科学部の4学科よりそれぞれ教員が参加し、各学部・学科における医療人養成の現状について説明を行った。また、教育研修支援課および保健科学部事務室入試・企画係の事務職員も参加した。高等学校からは福島、安積、会津、磐城、橘、安積黎明、須賀川創英館、白河、喜多方、いわき湯本、相馬、原町の各校から担当者が参加し、忌憚のない意見交換を行った。また、高校教育課より今後の取り組みについての説明があった。情報交換会の終了後には保健科学部の施設見学会を実施し、高等学校の先生方に我々の教育研究施設を見学いただいた。

福島県において多職種の医療従事者を総合的に養成しているのは本学である、という責任感に基づき、今後も情報共有を密にして高等学校と大学が連携して進めていく必要性を感じる会となった。

日 程	参 加 高 校	参 加 教 員
2月1日	福島高校 安積高校 会津高校 磐城高校 安積黎明高校 白河高校 喜多方高校 いわき湯本高校 相馬高校 原町高校	医学部 : 亀岡教授 大谷教授 看護学部 : 丸山准教授 保健科学部 : 久保教授 他各学部の教職員

## 2023 年度医療施設等を対象とした教育研修

保健科学部は 2021 年 4 月に開設され、2024 年度には 1 期生が 4 年生となり 2025 年 3 月には初の卒業生を輩出する。本学部を卒業すれば、学生は次の進路に向かうことになる。

学部を卒業すると、一般的には就職するか大学院へ進学する。特に就職については多くの学生が医療・福祉施設等への就職を希望することになる。そこで、本学部において学生に対してどのような進路支援を行っているのか、各学科がどのような卒業生を送り出そうとして日々教育に励んでいるか、を県内医療・福祉関係施設の皆様にご理解いただくとともに、卒業生の受入れにご理解とご協力をいただきたく本研修会を開催した。

テーマは「保健科学部における進路支援 ―本学部卒業生は、このように巣立ちます―」とし、福島県内の医療・福祉施設等で本学卒業生の受入れに関心のある方を対象とした。内容は保健科学部進路支援部会の先生方のご協力を得て、まず進路支援部会長の理学療法学科 柴教授より保健科学部における進路支援活動についてお話しをいただいた後、理学療法学科からは佐藤助教、作業療法学科からは石川講師、診療放射線科学科からは久保教授、そして臨床検査学科からは鈴木准教授に各学科が目指す卒業生像についてお話しをいただいた。

県内各地の施設より 60 名を超える事前登録および実際の参加があり、何れの学科からもどのような教育や支援を行っているかについて、様々な特徴的な取り組みも含めてご紹介いただいた。ご参加いただいた方へのアンケート結果から、9 割以上の皆様にご満足いただけたと共に各学科の学生の様子をうかがうことができ良かったとの結果となった。4 学科を網羅的に紹介したので、是非学科毎に開催して欲しいなどの要望も頂戴した。これについては様々な問題をクリアしていく必要があるが、前向きに検討したいと考えている。

本研修会を通じて、県内の医療施設など関連施設の皆様に保健科学部から卒業する学生に関する一端を知っていただくことができたと考えている。引き続き県内の関連施設を対象とする研修会を開催することで、施設の運営や活動に微力ながら尽力していきたいと思っている。

なお、研修会の詳細は以下のとおりである。

## 研修会

- **テーマ** 保健科学部における進路支援  
—本学部卒業生は、このように巣立ちます—
- **日時** 2024年3月5日(火) 17:30~18:45
- **対象** 福島県立医科大学保健科学部の卒業生受入れに関心のある施設など
- **内容** オンライン研修会
- **講師** 久保均教授  
(福島県立医科大学保健科学部診療放射線学科、保健科学教育研修部門部門長)  
柴喜崇教授 (福島県立医科大学保健科学部理学療法学科、進路支援部会長)  
佐藤聡見助教 (福島県立医科大学保健科学部理学療法学科)  
石川陽子講師 (福島県立医科大学保健科学部作業療法学科)  
鈴木英明准教授 (福島県立医科大学保健科学部臨床検査学科)
- **結果** 67アクセス (30分以上視聴に限定)
- **スライド集**

福島県立医科大学医療人育成・支援センター保健科学教育研修部門主催 2024/3/5 Web meeting  
2023年度研修会

保健科学部における進路支援 —本学部卒業生は、このように巣立ちます—

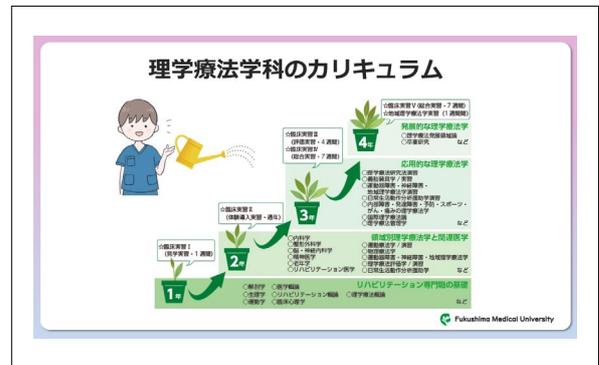
### 診療放射線科学科が目指す卒業生像

福島県立医科大学  
保健科学部診療放射線科学科  
久保均  
kubo-h@fmu.ac.jp

### 保健科学部の教育目標

- ・プロフェッショナルとしての高度な知識と技術を修得し、**チーム医療**の一員としての役割を果たすことができる人材を育成する。
- ・主体的・創造的に**問題を把握・解決**できる医療人となるべく、また人としても、常に学び続け、**成長**することができる人材を育成する。
- ・**地域医療、災害医療**に関する知識を修得し活かすことができる人材を育成する。

2024/3/5 福島県立医科大学医療人育成・支援センター 保健科学教育研修部門主催 2023年度研修会



### 臨床検査学科の特色

- ・ **病院が併設**  
→ 臨地実習の充実と医療現場を把握しやすい
- ・ **臨床や研究にたけた教員**  
臨床経験豊富な医師と臨床検査技師  
研究熱心な教員  
→ 生の臨床・現場に則した学問探求ができる臨床検査技師を目指す
- ・ **地域衛生環境施設の見学**  
→ 予防医学・公衆衛生の観点から、臨床検査技師の役割を学ぶ

女性 6名	臨床検査技師 10名
男性 9名	医師 3名
	基礎研究者 2名
教授 5名	
准教授 3名	
講師 2名	
助教 5名	

## 4. 研究業績

---



## 論 文

[原 著]

Yamakuni R, Seino S, Ishii S, Ishikawa H, Kikori K, Ando T, Kakamu T, Fukushima K, Otani K, Ito H. Lumbar intradural space reduction during the Valsalva maneuver observed using cine MRI and MR myelography: a single-case experimental study. *Acta Neurochirurgica*. 202308; 165(8):2111-2120.

Kozato A, Shikino K, Matsuyama Y, Hayashi M, Kondo S, Uchida S, Stanyon M, Ito S. A qualitative study examining the critical differences in the experience of and response to formative feedback by undergraduate medical students in Japan and the UK. *BMC Medical Education*. 202306; 23(1):408.

Kobayashi T, Morimoto T, Shimano C, Ono R, Otani K, Mawatari M. Clinical characteristics of locomotive syndrome categorised by the 25-question Geriatric Locomotive Function Scale: A systematic review. *BMJ Open*. 202305; 13(5):e068645.

Tang Z, Jiang L, Zhu X, Huang M. An Internet of Things-Based Home Telehealth System for Smart Healthcare by Monitoring Sleep and Water Usage: A Preliminary Study. *Electronics*. 202309; 12(17):3652.

Kobayashi H, Tominaga R, Otani K, Sekiguchi M, Nikaido T, Watanabe K, Kato K, Yabuki S, Konno SI. Lumbar spinal stenosis is a risk factor for the development of dementia: locomotive syndrome and health outcomes in the Aizu cohort study. *European Spine Journal*. 202302; 32(2):488-494.

Tang Z, Shikama Y, Otani K. Comparison of student self-assessment and teacher assessment of medical interview performance during bedside learning. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202304; 69(1):21-28.

Kato K, Yabuki S, Otani K, Nikaido T, Otoshi K, Watanabe K, Kobayashi H, Konno SI. A muscle-preserving, spinous process-splitting approach for ossification of the ligamentum flavum in the thoracic spine in professional athletes: a report of three cases. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202308; 69(2):143-150.

Sato M, Tominaga R, Kurita N, Sekiguchi M, Otani K, Konno SI, Oi N. Relationship between dysphagia and motor function in community-dwelling older people. *Geriatrics and Gerontology International*. 202308; 23(8):603-608.

Kobayashi H, Sekiguchi M, Otani K, Ono R, Nikaido T, Watanabe K, Kato K, Kobayashi Y, Yabuki S, Konno SI, Matsumoto Y. Assessment of Lumbar Spinal Stenosis as a Risk Factor for Development of Sleep Disorder: The Locomotive Syndrome and Health Outcome in Aizu Cohort Study (LOHAS). *International Journal of General Medicine*. 202311; 16:5417–5424.

Otoshi K, Kikuchi S, Otani K, Sonobe T, Sekiguchi M, Konno S. Potential influencing factor on health-related quality of life in Japanese with knee osteoarthritis: the Locomotive syndrome and Health outcome in Aizu cohort Study (LOHAS). *Journal of Experimental Orthopaedics*. 202308; 10(1):88.

Kobayashi T, Morimoto T, Shimano C, Ono R, Otani K, Mawatari M. The association of comorbidities with the 25-question geriatric locomotive function scale and the diagnosis of locomotive syndrome. *Journal of Orthopaedic Science*. 202303; 28(2):453–459.

Nikaido T, Sekiguchi M, Yonemoto K, Kakuma T, Watanabe K, Kato K, Kobayashi H, Tominaga R, Otani K, Yabuki S, Kikuchi SI, Konno SI. Generalization of a clinical diagnosis support tool for lumbar spinal stenosis: Can the ankle brachial pressure index be replaced by palpation of the posterior tibial artery in the lumbar spinal stenosis diagnostic support tool? (DISTO project). *Journal of Orthopaedic Science*. 202305; 28(3):543–546.

Kobayashi T, Morimoto T, Ono R, Otani K, Mawatari M. Is grip strength useful in screening to predict the severity of locomotive syndrome? *Journal of Orthopaedic Science*. 202307; 28(4):880–885.

Uchida K, Ueda Y, Nakamura J, Murata S, Endo T, Otani K, Ono R. Effect of car use on social frailty among community-dwelling older adults in rural areas. *Journal of Transport and Health*. 202305; 30:101609.

Kobayashi T, Morimoto T, Shimano C, Ono R, Otani K, Mawatari M. A Simplified Screening Tool for the One-Leg Standing Test to Determine the Severity of Locomotive Syndrome. *Life*. 202305; 13(5):1190.

Stanyon M. The wisdom of entrustability: A critically conscious approach to practical wisdom. *Medical Education*. 202312; 57(12):1173–1175.

Kawakatsu S, Kobayashi R, Morioka D, Hayashi H, Utsunomiya A, Kabasawa T, Ohe R, Futakuchi M, Otani K. Clinicopathological diversity of semantic dementia: Comparisons

of patients with early-onset versus late-onset, left-sided versus right-sided temporal atrophy, and TDP-type A versus type C pathology. *Neuropathology*. 202302; 43(1):5-26.

Takahashi Y, Fujii S, Osakabe Y, Hoshino H, Konno R, Kakamu T, Fukushima T, Matsumoto T, Yoshida K, Aoki S, Kanno K, Oi N, Ueda Y, Suzutani K, Sato A, Mori Y, Wada T, Shiga T, Itagaki S, Miura I, Yabe H. Impaired mismatch negativity reflects the inability to perceive beat interval in patients with schizophrenia. *Schizophrenia Research*. 202304; 254:40-41.

Yamakuni R, Ishii S, Kakamu T, Ishikawa H, Sekino H, Seino S, Fukushima K, Otani K, Ito H. Relationship between lumbar spinal stenosis and cauda equina movement during the Valsalva maneuver. *Skeletal Radiology*. 202307; 52(7):1349-1358.

Inose H, Kato T, Ichimura S, Nakamura H, Hoshino M, Takahashi S, Togawa D, Hirano T, Tokuhashi Y, Ohba T, Haro H, Tsuji T, Sato K, Sasao Y, Takahata M, Otani K, Momoshima S, Hirai T, Yoshii T, Takahashi K, Okawa A. Factors affecting the quality of life in the chronic phase of thoracolumbar osteoporotic vertebral fracture managed conservatively with a brace. *Spine Journal*. 202303; 23(3):425-432.

Tezuka F, Sakai T, Imagama S, Takahashi H, Takaso M, Aizawa T, Otani K, Okuda S, Kato S, Kanemura T, Kawaguchi Y, Konishi H, Suda K, Terai H, Nakanishi K, Nishida K, Machino M, Miyakoshi N, Murakami H, Yamato Y, Yukawa Y. Management of Antithrombotic Drugs before Elective Spine Surgery: A Nationwide Web-Based Questionnaire Survey in Japan. *Spine Surgery and Related Research*. 202304; 7(5):428-435.

Rouyard T, Endo M, Nakamura R, Moriyama M, Stanyon M, Kanke S, Nakamura K, Chen C, Hara Y, Ii M, Kassai R. Fukushima study for Engaging people with type 2 Diabetes in Behaviour Associated Change (FEEDBACK): study protocol for a cluster randomised controlled trial. *Trials*. 202305; 24(1):317.

川口善治, 今釜史郎, 高橋寛, 高相晶士, 相澤俊峰, 大谷晃司, 奥田眞也, 加藤仁志, 金村徳相, 小西宏昭, 酒井紀典, 須田浩太, 手束文威, 中西一夫, 西田康太郎, 町野正明, 宮腰尚久, 村上英樹, 大和雄, 湯川泰紹, JSSR 安全医療推進委員会. 脊椎手術における高位確認に関するアンケート調査(脊椎手術のヒヤリハット). *Journal of Spine Research*. 202305; 14(5):748-752.

小林洋, 二階堂琢也, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林良浩, 大谷晃司, 矢吹省司, 紺野慎一. 脊椎疾患における院内転倒 睡眠薬と夜間転倒に着目した当院のインシデント分析. *Journal of Spine Research*. 202306; 14(6):953-958.

中村正隆, 大谷晃司. 【脊椎脊髄領域の画像診断-最新の知識と進歩】成人の脊椎脊髄疾患の画像診断 腰痛の画像診断全般. 整形・災害外科. 202304; 66(5):519-524.

堀内聡, 青木俊太郎, 岩野卓, 岡村尚昌, 瀧井美緒, 米田健一郎, 青山瞳. 大学生が経験するストレスの肯定的な効果に関する研究. 比治山大学紀要. 202303; 29:83-91.

#### 書籍等出版物

Stanyon M, Nicodemus L, Ramsay R. Social Accountability. In: Val Wass, Victor Ng. Family Medicine in the Undergraduate Curriculum. Boca Raton: CRC press; 2023. p.17-26.

坂野雄二, 青木俊太郎 (監訳). 認知行動療法と治療関係: 臨床家のためのガイドブック. 東京: 金剛出版. 202306.

#### 研究発表等 (講演・口頭発表等)

[研究発表]

Watanabe K, Otani K, Nikaido T, Kato K, Kobayashi H, Kobayashi Y, Yabuki S, Konno S. Mild Cognitive Impairment in Elderly Patients with Lumbar Spine Stenosis. ISSLS2023 第49回国際腰椎研究会議; 20230502; Melbourne, Australia.

Watanabe K, Otani K, Sekiguchi M, Nikaido T, Kato K, Kobayashi H, Tominaga R, Kobayashi Y, Yabuki S, Konno S. Does daily exercise prevent future care needs related to spinal sagittal imbalance? Locomotive Syndrome and Health Outcomes in the Aizu Cohort Study (LOHAS). ISSLS2023 第49回国際腰椎研究会議; 20230502; Melbourne, Australia.

Yokota T, Otani K, Endo Y, Watanabe T, Kobayashi K, Kameda T, Sekiguchi M, Konno S. Efficacy of VBQ Scores in Predicting the Incidence of New Vertebral Fractures in Japanese Female 50 Years of Age and Older. ISSLS2023 第49回国際腰椎研究会議; 20230501-04; Melbourne, Australia.

Shikama Y, Oikawa S, Stanyon M, Yasuda M, Otani K. Cultural characteristics of clinical leadership competencies required for effective teamworking in Japanese healthcare. AMEE2023; 20230826-30; Glasgow, Scotland. Abstract-Book. 3545.

Watanabe K, Otani K, Sekiguchi M, Nikaido T, Kato K, Kobayashi H, Tominaga R, Kobayashi Y, Yabuki S, Kikuchi S, Konno S. Spino-pelvic parameters and need for future care in elderly adults: Locomotive Syndrome and Health Outcomes in the Aizu Cohort Study (LOHAS).

43rd SICOT Orthopaedic World Congress; 20231121; Cairo, Egypt.

鈴木駿介, 渡邊和之, 小林良浩, 小林洋, 加藤欽志, 二階堂琢也, 大谷晃司, 矢吹省司, 紺野慎一. 段階的に手術を施行した筋性斜頸遺残—1例報告. 第33回東北脊椎外科研究会; 20230121; 仙台. 東北整形災害外科学会雑誌. 66(1):222-223.

猪股洋平, 渡邊和之, 小林良浩, 小林洋, 加藤欽志, 二階堂琢也, 大谷晃司, 矢吹省司, 紺野慎一. 複数回の手術を要した頸椎砂時計腫の治療経験—3例報告. 第33回東北脊椎外科研究会; 20230121; 仙台. 東北整形災害外科学会雑誌. 66(1):225-226.

横田武尊, 大谷晃司, 遠藤裕司, 亀田拓哉, 小林賢司, 渡邊剛宏, 関口美穂, 紺野慎一. 福島県南会津地区の地域住民における腰椎骨折の既往と Vertebral Bone Quality Score との関係についての検討(横断研究). 第52回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20230413-15; 札幌. Journal of Spine Research. 14(3):652.

小林孝巨, 森本忠嗣, 山口雄一, 平田寛人, 戸田雄, 吉原智仁, 塚本正紹, 大谷晃司, 馬渡正明. 腰部脊柱管狭窄症に対する手術がロコモティブシンドロームのリスクテストに与える影響—メタ解析—. 第52回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20230413-15; 札幌. Journal of Spine Research. 14(3):693.

大谷晃司, 矢吹省司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林洋, 小林良浩, 紺野慎一. 両側 ATR 消失に影響を与える因子の検討: 第2報—南会津スタディより—. 第52回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20230413-15; 札幌.

小林賢司, 大谷晃司, 関口美穂, 紺野慎一. 11年間の腰椎椎間関節変性の進行が健康関連 QOL 変化に与える影響—南会津スタディ—. 第52回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20230413-15; 札幌.

小林洋, 関口美穂, 小野玲, 大谷晃司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林良浩, 矢吹省司, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄は睡眠障害発症の危険因子である—地域住民を対象とした前向きコホート研究: LOHAS study—. 第52回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20230413-15; 札幌.

森本忠嗣, 大谷晃司, 比嘉勝一郎, 塚本正紹, 吉原智仁, 平田寛人, 戸田雄, 小林孝巨. 胸椎後縦靭帯骨化症の腸内細菌叢の解析. 第52回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20230413-15; 札幌.

渡邊和之, 大谷晃司, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林洋, 小林良浩, 矢吹省司, 紺野慎一. 高齢者腰椎疾患における軽度認知機能障害. 第52回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20230413-15; 札幌.

横田武尊, 大谷晃司, 亀田拓哉, 遠藤裕司, 小林賢司, 渡邊剛広, 関口美穂, 紺野慎一. 椎体骨折発生予測に対する vertebral bone quality score の有効性に関する縦断研究. 第96回日本整

形外科学会学術総会；20230511-14；横浜．日本整形外科学会雑誌．97(3)：S868.

大谷晃司，関口美穂，小野玲，紺野慎一．Rib-pelvis distance は，将来の要介護発生を予測できるバイオマーカーとなりうるか．第96回日本整形外科学会学術総会；20230511-14；横浜．日本整形外科学会雑誌．97(3)：S947.

小林賢司，大谷晃司，関口美穂，加藤欽志，紺野慎一．腰椎椎間関節の変性進行は腰痛と関連しない—南会津スタディ11年フォローアップ—. 第96回日本整形外科学会学術総会；20230511-14；横浜．日本整形外科学会雑誌．97(3)：S1010.

渡邊和之，大谷晃司，関口美穂，二階堂琢也，加藤欽志，小林洋，富永亮司，小林良浩，矢吹省司，紺野慎一．運動習慣は脊柱矢状面バランス不良に関連する要介護状態を予防できるか—LOHAS—. 第96回日本整形外科学会学術総会；20230511-14；横浜．日本整形外科学会雑誌．97(3)：S1172.

遠藤裕司，小林洋，大谷晃司，関口美穂，渡邊和之，小野玲，紺野慎一．変形性膝関節症は認知症発症のリスク因子である—運動器検診と介護保険 システムのデータを用いた前向きコホート研究—. 第96回日本整形外科学会学術総会；20230511-14；横浜．日本整形外科学会雑誌．97(3)：S1207.

小林良浩，大谷晃司，小林洋，二階堂琢也，渡邊和之，加藤欽志，紺野慎一．手指10秒テストと握力による頸髄症スクリーニングツールは手術症例の選別に適当か．第96回日本整形外科学会学術総会；20230511-14；横浜.

園部樹，大谷晃司，関口美穂，大歳憲一，紺野慎一．変形性膝関節症と身体機能の関連性—運動器検診のデータを用いた横断研究：LOHAS study—. 第96回日本整形外科学会学術総会；20230511-14；横浜.

唐尊一，亀岡弥生，青木俊太郎，Stanyon M，及川沙耶佳，安井清孝，諸井陽子，安田恵，中村光輝，赤間孝洋，大谷晃司．Comparison of Student Self-Assessment and Teacher Assessment of Medical Interview Performance During Clinical Clerkship. 第504回福島医学会学術研究集会；20230525；福島．福島医学雑誌．73(3)：79.

諸井陽子，及川沙耶佳，安田恵，中村光輝，赤間孝洋，色摩弥生，大谷晃司．医学生自身が作成した認知症シナリオのロールプレイとその動画視聴による学び．第55回日本医学教育学会大会；20230728-29；長崎．医学教育．54(Suppl)：184.

色摩弥生，及川沙耶佳，スタンヨン・マハム，安田恵，大谷晃司．日本文化に根差した、医療チームにおける医師のリーダーシップコンピテンシーの構築．第55回日本医学教育学会大会；

20230728-29; 長崎. 医学教育. 54(Suppl):188.

大谷晃司, 諸井陽子, 安田恵, 及川沙耶佳, 青木俊太郎, 唐尊一, Stanyon M, 中村光輝, 赤間孝洋, 安井清孝, 色摩弥生. 臨床研修指導医養成講習会ワークショップの成果物から見た福島県における臨床研修の問題点の変遷について. 第 55 回日本医学教育学会大会; 20230728; 長崎. 医学教育. 54(Suppl):199.

安田恵, 今福輪太郎, 川上ちひろ, 西城卓也. 地域医療を担う指導医が考える地域医療教育の在り方と、教育活動への影響因子に関する探索的研究. 第 55 回日本医学教育学会大会; 20230729; 長崎. 医学教育. 54(Suppl):217.

及川沙耶佳, 色摩弥生, 安田恵, 大谷晃司. 実技試験の課題作成に関する難しさについて. 第 55 回日本医学教育学会大会; 20230728-29; 長崎. 医学教育. 54(Suppl):280.

唐尊一, 色摩弥生, 青木俊太郎, Stanyon M, 及川沙耶佳, 安井清孝, 諸井陽子, 安田恵, 中村光輝, 赤間孝洋, 大谷晃司. 臨床実習中の医療面接のパフォーマンスに対する学生の自己評価と教師評価の比較. 第 55 回日本医学教育学会大会; 20230729; 長崎. 医学教育. 54(Suppl):303.

猪股洋平, 渡邊和之, 小林良弘, 小林洋, 加藤欽志, 二階堂琢也, 大谷晃司, 矢吹省司, 紺野慎一. 頸椎砂時計腫の手術成績 再手術例の検討. 第 72 回東日本整形災害外科学会; 20230922-23; 旭川.

横田武尊, 大谷晃司, 富永亮司, 遠藤裕司, 渡邊剛宏, 小林賢司, 関口美穂, 紺野慎一. 椎体骨折発生予測における VBQ スコアの有効性と VBQ スコアを用いた予測モデルの開発について 11 年フォローアップ MRI データを用いた研究 (Minami-Aizu study). 第 25 回日本骨粗鬆症学会; 20230929-1001; 名古屋. 日本骨粗鬆症学会雑誌. 9(Suppl.1):465.

園部樹, 大谷晃司, 大歳憲一, 関口美穂, 紺野慎一. 変形性膝関節症と健康関連 QOL の関連性 運動器検診のデータを用いた横断研究 LOHAS study. 第 38 回日本整形外科学会基礎学術集会; 20231019-20; つくば. 日本整形外科学会雑誌. 97(8):S1952.

小林賢司, 大谷晃司, 関口美穂, 松本嘉寛. 腰椎 Modic 変化と腰痛の関連の検討 南会津スタディ. 第 16 回日本運動器疼痛学会; 20231103-04; 富山. Journal of Musculoskeletal Pain Research. 15(4):S81.

渡邊和之, 大谷晃司, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林洋, 小林良浩, 矢吹省司, 紺野慎一, 松本嘉寛. 腰部脊柱管狭窄に対する除圧術における腰痛改善の予測 BS-POP の有用性. 第 16 回日本運動器疼痛学会; 20231103-04; 富山. Journal of Musculoskeletal Pain Research. 15(4):S81.

渡邊和之, 大谷晃司, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林洋, 小林良浩, 矢吹省司, 紺野慎一, 松本嘉寛. 高齢者腰椎疾患における軽度認知機能障害 術後短期成績との関連. 第 31 回日本腰痛学会; 20231201; 徳島.

遠藤裕司, 関口美穂, 大谷晃司, 小林洋, 渡邊和之, 小野玲, 紺野慎一, 松本嘉寛. 多部位慢性疼痛と転倒による入院イベントとの関連. 第 45 回日本疼痛学会; 20231208-09; 福島. Pain Research. 38(Suppl):S35.

小林賢司, 大谷晃司, 関口美穂, 松本嘉寛. 腰椎 Modic 変化の新規発生と腰痛との関連 南会津スタディ 11 年フォローアップ. 第 45 回日本疼痛学会; 20231208-09; 福島. Pain Research. 38(Suppl):S36.

中野裕子, 笠原諭, 大石理江子, 小幡英章, 大谷晃司, 井上聡己. 整形外科慢性痛患者における ADHD スクリーニング陽性率と, 不安やうつ, 破局的思考への関与. 第 45 回日本疼痛学会; 20231208-09; 福島. Pain Research. 38(Suppl):S44.

渡邊和之, 大谷晃司, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林洋, 小林良浩, 関口美穂, 矢吹省司, 松本嘉寛. 脊椎手術後疼痛症候群に対する薬物療法と手術満足度との関係 横断研究. 第 45 回日本疼痛学会; 20231208-09; 福島. Pain Research. 38(Suppl):S44.

#### [シンポジウム]

青木俊太郎, 服部稔, 松崎朝樹, 堀内聡. 行動科学・臨床心理学教育に活かす医学教育. 行動科学学会第 38 回ウィンターカンファレンス; 20230318; Web.

根本清貴, 松崎朝樹, 益田裕介, 大武陽一, 青木俊太郎, 岩野卓. 精神科医療に SNS をどう活用するのか—その可能性と課題—. 第 119 回日本精神神経学会学術総会; 20230622-24; 横浜. 精神神経学雑誌. 2023(特別):S360.

蓮沼直子, 服部稔, 青木俊太郎, 堀田亮, 唐牛祐輔. 心理学者は医学教育にどのような貢献ができるのか. 第 55 回日本医学教育学会大会; 20230728-29; 長崎. 医学教育. 54(Suppl):59.

堀内聡, 坪井宏仁, 上野将玄, 青木俊太郎, 岡村尚昌. 精神神経内分泌免疫学のカレントトピックス. 日本心理学会第 87 回大会; 20230915-17; 神戸. 論文集. 87:SS-022.

二階堂琢也, 矢吹省司, 大谷晃司, 関口美穂, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林洋, 小林良浩, 松本嘉寛. 疼痛関連ガイドライン 運動器慢性疼痛の診療にガイドラインをどう活かすか EBM と NBM を意識したアプローチの重要性. 第 16 回日本運動器疼痛学会; 20231103-04; 富山. Journal of Musculoskeletal Pain Research. 15(4):S24.

二階堂琢也, 矢吹省司, 大谷晃司, 関口美穂, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林洋, 小林良浩, 松本嘉寛. 痛みに対する侵襲的治療—適応とエビデンス, そして限界—手術. 第 45 回日本疼痛学会; 20231208-09; 福島. Pain Research. 38(Suppl):S17.

〔特別講演〕

大谷晃司. 整形外科の仲間を増やすには?—OA、骨粗鬆症の疼痛管理を通じて、学部教育・研修医教育を俯瞰する—. 第 120 回東北整形災害外科学会; 20230610; 福島.

大谷晃司. 最近経験した脊椎脊髄疾患とその治療について. 郡山の腰痛を考える会; 20230713; Web.